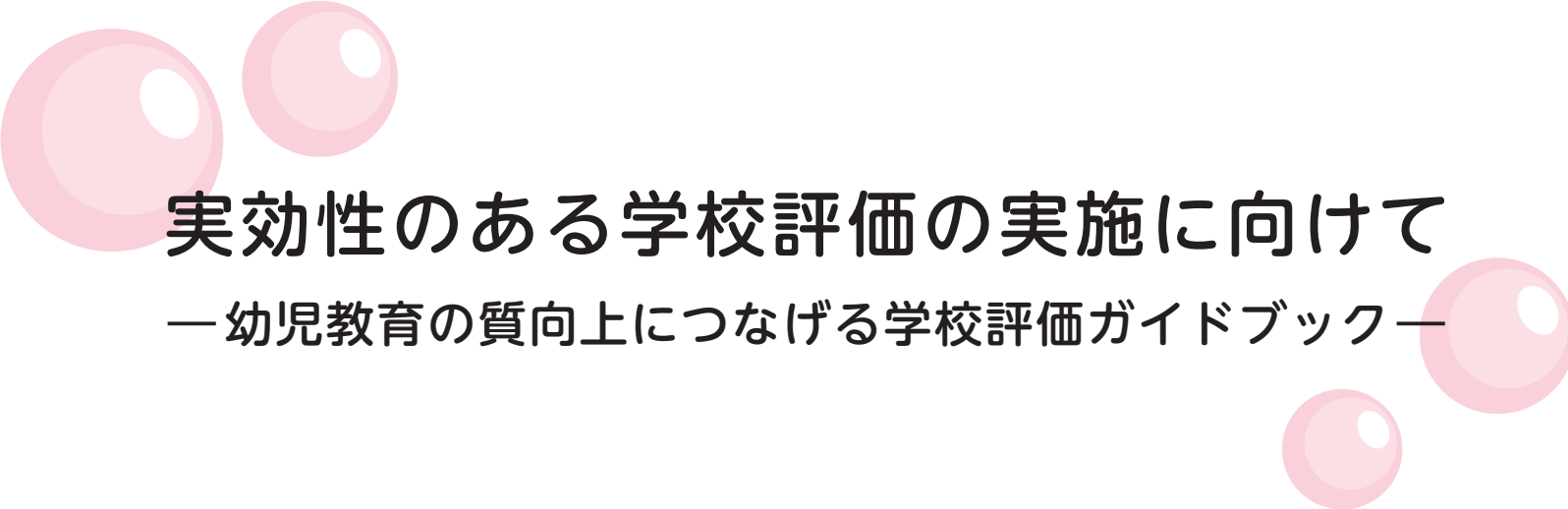


文部科学省委託「令和2年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
(幼稚園における学校評価に関する調査研究)」



実効性のある学校評価の実施に向けて — 幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブック —

公益社団法人 全国幼児教育研究協会

本書は、文部科学省の「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（幼稚園における学校評価に関する調査研究）」の委託費による委託業務として、公益社団法人全国幼児教育研究協会が実施した令和2年度幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究の成果を取りまとめたものです。

したがって、本書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

— 本ガイドブックの活用に向けて —

今、保育の質向上につながる実効性のある学校評価が求められています。各幼稚園においては、これまでも様々な工夫をして学校評価を進めてきていますが、なかなか実効性のある学校評価が進めにくい状況があります。

そこで各幼稚園が行っている学校評価の現状と課題について実態を調査し、「実効性のある学校評価の実施に向けて 一幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックの作成—」として報告書をまとめました。同時に、その中で明らかになった課題に即して、各幼稚園における学校評価の具体的な進め方や実施上の留意点などの参考となるように、本ガイドブックを作成しました。

順に読み進めてもよいと思いますが、

- 困っている、悩んでいるページから読む
- 興味がある、気になるページから読む
- 先にQ&Aを読む

のも、お薦めです。

実施しようとして、具体的に設定しようとする
と疑問がふつふつと、…というときには

- Q&Aを見る
- 文中の図をよく見て、流れを追ってみる
- 上記報告書に書かれている事例を見る

のも、よいかもしれません。



はじめに	1
I 自己評価の具体的な実施方法	3
1 重点的に取り組む目標の設定	3
(1) 重点的に取り組む目標を設定する際の留意点	3
(2) 前年度の学校評価の結果から、成果や改善策の次年度への反映	4
2 評価項目の設定	5
3 評価指標・基準の設定	6
(1) 段階的な基準として評価指標を設定する方法	7
(2) 多面的な取組や姿で評価指標を設定する方法	10
4 保護者や地域住民等の意見や要望の把握	13
(1) 日常の保育や諸行事の感想や要望等の聴取	13
(2) 保護者アンケートの実施	13
5 年度末の自己評価	14
(1) 年度末の自己評価の準備	14
(2) 園長のリーダーシップの下に全教職員で行う自己評価	14
(3) 自己評価の総括について	15
(4) 自己評価の総括表の例	15
6 全方位的な点検・評価と日常的な点検	18
(1) 日々の園運営の中で、幅広い全方位型の点検とは	18
(2) 一定期間で多岐にわたる分野の評価とは	18
(3) 全方位的な点検項目の例	19




まずは、
やってみて





試して
みて

7	自己評価の結果のまとめから報告書の作成・公表	22
(1)	自己評価の結果から改善策の検討	22
(2)	自己評価の結果報告書の作成・公表	23
II	学校関係者評価の具体的な実施方法	24
1	学校関係者評価の目的と流れ	24
2	学校関係者評価の結果報告書作成と設置者への提出	25
III	自己評価及び学校関係者評価の結果公表及び説明	26
参考資料1	本ガイドブックにおける学校評価に関する用語の定義	29
参考資料2	評価指標の例	31
参考資料3	ECEQ [®] を活用した自己評価の方法の例	42
参考資料4	Q&Aの質問内容一覧	47
参考資料5	学校評価の結果公表の様式例	49



分かったことを
確かめながら



教職員と一緒に、
自園にふさわしい方法
を見つけてください！

はじめに

今、幼稚園には、地域社会に開かれた幼児教育施設として教育活動及びその他の運営を充実させると同時に、教育の質の向上につながる実効性のある学校評価を的確に行うことが求められています。

各幼稚園においては、実践の中で振り返りを丁寧に行い、幼児理解を深めたり幼児の興味・関心を捉えたりしながら保育の改善に取り組んでいます。しかし、具体的な方法や内容が見いだせず実現できにくい状況があります。

このガイドブックでは、各幼稚園の「保育の充実に向けた取組」と「学校評価への取組」の視点の重なりを考慮し、「学校評価を実施すると、園運営の改善だけでなく、教職員の共通理解の深まりと保育の質の向上につながった！」と感じていただけるように工夫しています。ガイドブックを作成するに当たり、インタビュー調査や訪問調査を行い、「保育の質の向上につながることを実感できる学校評価」について検討しました。その中で、既に先進的な実践を行っている園長先生からこんな話も聞きました。

「自己評価をするときに『指標』を設定し始めて3年目になります。1年目には、保育のヒントとなるように『取組指標』を設定し、「子どもたちがこんな育ちを見せたら嬉しいね」というような成長モデルを『成果指標』として示したら、教職員からは、『さっぱり分からない』と言われた」そうです。しかし、「3年目には、教職員は、指標として設定した取組を意識しながら保育に取り組むのが当たり前になっていた」と言うのです。つまり、こうしたらもっと保育がよくなるという提案のような指標設定が、初めは少し難しく感じたけれど、教職員の「さっぱり分からない」という言葉を受け止め、書き直したり工夫したりして、園長のリーダーシップの下に全教職員で進めているうちに、自己評価が保育の質を保証するための仕組みとして機能していたそうです。

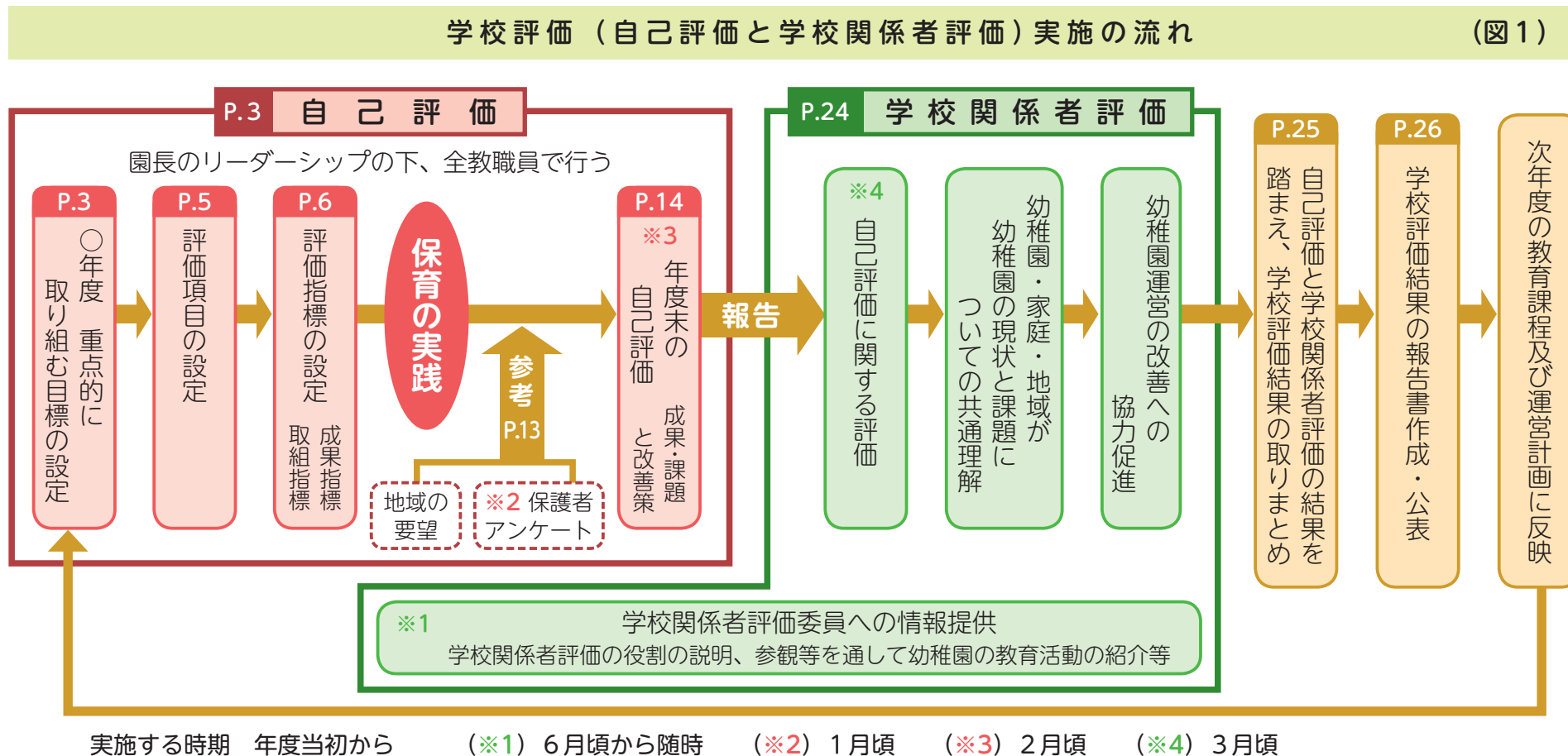
この幼稚園の例のように、目指すべき目標及びそれを実現する指標を問い直すことを通して教育の質向上や教職員の意識改革につながるような実効性のある学校評価の実施が求められます。学校評価の実施方法は、一律ではありません。本ガイドブックを活用して、各幼稚園の実践が実効性のある学校評価につながるように期待します。

さらに、幼稚園の実情に即した学校評価の実施のためには各幼稚園の努力も大切ですが、学校評価に関する研修の充実が求められます。各園の実情に応じた活用と研修の充実によって、各幼稚園における学校評価の実効性の高まりにつながることを期待しています。

学校評価の目的は、以下の通りです。（「幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]」文部科学省より）

- 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること
- 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
- 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

学校評価の実施の流れ全体を俯瞰的に概観すると下図のようになります。それぞれの解説しているページを示していますので、本ガイドブックを参考に、自園の課題に即した目標や評価項目等の設定により、実効性のある学校評価となるよう工夫していただきたいと思います。



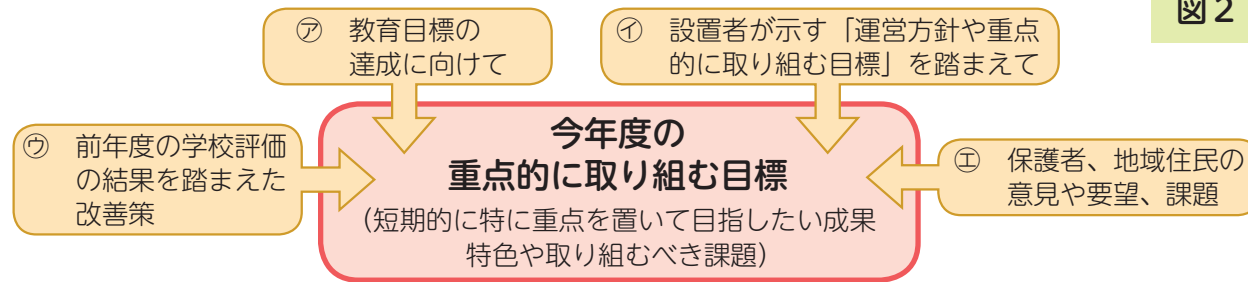
これから実効性のある学校評価を考えてみようとする幼稚園が活用しやすいように具体的な方法を提案しています。本ガイドブックを参考に、それぞれの幼稚園の実情に即して、保育の質向上につながる方策についてイメージを広げてください。そして、「こんな取組をしたら、目標に近づくかもしれない」と思う取組を評価項目・評価指標に設定して、取り組んでみてください。そして、取組の結果をその指標で見てもたら、「こういう取組が、幼児の育ちにつながっていたのね。」「来年、こんな取組もしたら、幼児の学びが豊かになるかもしれない。」「教育課程や指導計画を見直してみよう。」など、幼児の育ちや保育の質向上への声が聞こえてくるように、自己評価を充実させて学校関係者評価につなげていければ、実効性のある学校評価が実現します。

I 自己評価の具体的な実施方法

学校評価においては、重点化された目標設定が自己評価の始まりであり、各幼稚園の課題に即して具体的で明確に示すことが求められる。

1 重点的に取り組む目標の設定

重点的に取り組む目標は、下図のような流れで設定することになる。



(1) 重点的に取り組む目標を設定する際の留意点

- ① 図2の⑦に示す園の教育目標の達成への方向性を意識しつつ、当該年度に特に重点として取り組むことが必要と考えることを目標とし、教育計画を具体的かつ明確に定めることが大切である。したがって、毎年同じ目標を設定するというのではなく、**当該年度の目標**であることに留意する。
- ② ①に示す設置者が示す「運営方針や重点的に取り組む目標」を踏まえる必要があるが、示された目標をそのまま設定するのではなく、幼稚園や幼児の実態に応じて考え、必要に応じて設定することが大切である。
- ③ 当該年度に特に重点を置いて目指したい成果・特色や取り組むべき課題を考える。
 - ・各園が設定している教育目標や教育活動の基本方針ではなく、
 - ・園運営の全分野を網羅して総花的に設定するのではなく、
 - ・保護者、地域住民等の意見や要望、課題等を勘案し、
 - ・幼稚園が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて精選する ことが大切である。

Q1 「重点的に取り組む目標」は、教育目標とは違うの？
いくつくらい設定するの？

A 教育目標を常に意識する必要はありますが、図2のように、今年度、特に重点を置くことは何か、課題の大きさや教職員の力量等を勘案しながら判断する必要があります。

目標の数に決まりはありませんが、単年度に重点的に取り組む目標ですから3～5つくらいで、無理のないように精選することが大切です。

Q2 「重点的に取り組む目標」は、園の教職員が決めてもいいのですか？

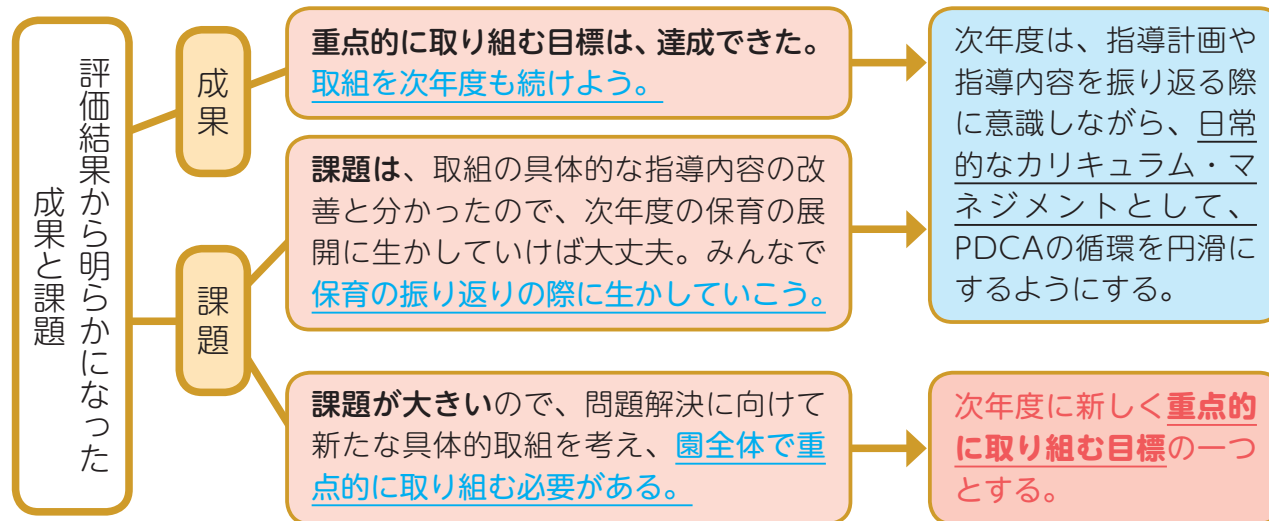
A 園長のリーダーシップの下に、全教職員で考え共通理解することが大切です。図2のような流れで、実際に取り組みやすいか、無理はないか等を検討しながら決めると、教職員が意欲的に取り組めるようになり実効性が高まります。

(2) 前年度の学校評価の結果から、成果や改善策の次年度への反映

図2に示した「㊦ 前年度の学校評価の結果を踏まえた改善策」を検討する流れは、以下に示す図3のようになる。年度末に教育活動その他の園運営について評価した結果を整理すると、様々な取組の成果と課題が見えてきて、当該年度の「重点的に取り組む目標」が達成できたかどうか分かる。同時に、その結果から成果を次年度の教育課程・指導計画に反映して取組を継続していくこととし、課題については、次年度の「重点的に取り組む目標」とすることが考えられる。また、その課題が重点として取り組む目標とするほどでなければ、日常の保育や職務遂行の中で意識して改善していくことになる。このように、明らかになった課題や改善策を次年度にどのように反映させるかについては、幼稚園の実情に応じて判断することが重要である。

学校評価の結果から次年度の重点的に取り組む目標に反映する流れ

図3



Q3 「重点的に取り組む目標」は、毎年同じでもいいですか？

A 学校評価の目的は、教育活動や運営が適切に行われているかを確認、課題や改善策を見付けることです。
目標が達成された課題について再度評価して、課題は見付かるでしょうか？別の課題を見付け、達成に向けて取り組むことが質の向上につながり、実効性のある学校評価につながります。

Q4 目標が達成していない場合は、次年度も同じ「重点的に取り組む目標」にするのですか？

A 同じにすることも考えられます。しかし、目標が達成できなかった原因はどこにあるのか考え、目標をより具体的にしてみよう。
また、取組に課題があったとすると、その課題を解決するために必要な具体的な取組となる評価項目等を変えてみることも考えてみましょう。

2 評価項目の設定

「評価項目」は、「重点的に取り組む目標」の達成を目指し、幼稚園が行う**具体的な取組**であり、まず自園がどのような取組をすることが有効なのかを考える必要がある。その具体的な取組は多様に考えられるが、特に「教育課程・指導」の分野を中心に考え、その他の分野も関連させて評価項目を設定すると、幅広い評価項目の設定になる。しかし、自己評価をする際、特定の分野ばかり評価するのでは学校運営全体における力点の置き方に均衡を失う可能性がある。そこで、「幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂] 文部科学省」(以降、「幼稚園における学校評価ガイドライン」と表記)に例示されている幼稚園運営の分野(本冊子P.29参照)や「具体的な評価項目等を検討する際の視点」(下記)を参考にしながら、自園の実情に応じて適切に評価項目を精選し設定することが実効性につながる。

「教育課程・指導の分野」の具体的な評価項目等を検討する際の視点

- 建学の精神や教育目標に基づいた幼稚園の運営状況
- 幼稚園の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況
- 学校行事の管理・実施体制の状況
- 教育週数、一日の教育時間の状況
- 年間の指導計画や週案などの作成の状況
- 幼小の円滑な連携・接続に関する工夫の状況
- 遊具・用具の活用
- ティーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況
- 幼児に適した環境に整備されているのかなど、学級経営の状況
- 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況 などである。

自然環境を活用できない教職員もいるので、「自然と関わる遊びを充実させる」ために自然と関わる遊びを指導計画の中に位置付けることと、自然と関わる遊び(教材)の研修を充実したいから、
 ㉞ 振り返りの充実による指導計画の改善 ……「教育課程・指導」の分野で考えた評価項目
 ㉟ 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施 ……「研修(資質向上の取組)」の分野から考えた評価項目 → この2つの取組を、評価項目として設定しよう。

Q 5 自園の実情に応じて「評価項目」を、どのように決めればよいですか？

A 「重点的に取り組む目標」によって異なりますが、「目標の達成に向けてどのような取組をするか」を考えましょう。例えば、…

教育目標「考えて行動する子ども」の達成に向けて、感じたり考えたりしながら好奇心いっぱいの活動を生み出す指導を充実させたい。

「不思議さや面白さを感じて夢中になるような姿がたくさん見られるような保育」を子どもが考える機会が多くなるよね。

自然と関わると、「不思議！」も多い。自然との関わりを充実させればいいのか？
園庭の自然が豊かなのに、教師は自然環境をあまり活用していないし、…。

そうだ。重点的に取り組む目標を「自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開」にしよう。

こんなのはどうでしょう

こんな目標を設定したら、どのような取組を考えましょうか。

3 評価指標・基準の設定

「評価指標」は、「評価項目」の達成状況や達成に向けた取組の状況を的確に把握するための視点である。具体的にどのような取組をどの程度行うかを、保育の実践場面としてイメージしやすいように示す必要がある。

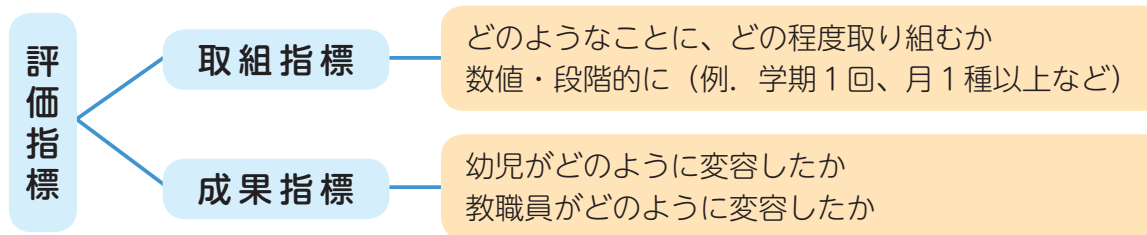
例えば、「取組指標」については、P.5で示した「評価項目」の例「㊦ 振り返りの充実による指導計画の改善」を実現するためには、一般的には、指導計画に基づいて保育を展開した後に幼児の興味・関心や遊びの様子等から、保育のねらい・内容や指導の方法等を振り返るとともに、その保育の計画や指導の内容・方法について評価を積み重ね、良かった点を継続し、より充実する手立てを考え、指導計画の改善すべき点を修正していく作業になる。その道筋は各幼稚園によって異なるが、そうした取組をどのように行い評価するのかを指標として示すのが、取組指標である。（参考資料2、P.31参照）

「成果指標」は、取組指標を基に取り組んだ結果、どのような成果が期待できるかについて具体的な幼児や学級集団の育ちや遊びの充実などから見ようとするものである。また、教職員に関する評価項目については、教職員の具体的な姿の変容の視点から見ることも考えられる。

評価指標の設定

図4

「評価指標」は、重点的に取り組む目標や評価項目の達成状況や達成に向けた取組を把握するための視点である。



※ 基準は各幼稚園独自のものだが、その基準が示す具体的な姿を教職員が共通理解することが大事！

Q6 「取組指標」や「成果指標」は、何をイメージして設定すればいいの？

A 「取組指標」は、その「評価項目」を実現するために、保育の中や職務の中で教職員が行う具体的な行動の視点で示すとよいでしょう。
例えば、指導計画を改善する際、どのような道筋が考えられますか？
参考資料2(P.31)を参照してください。

A 「指標」の設定は、図4のように具体的な取組を頻度や、行動の質的レベルを段階的に示し、保育のヒント、取組のヒントが読み取れるように示すとよいと思います。「成果指標」は、幼児や教職員の変容で示すようにしましょう。

Q7 なぜ、「指標」を示さないといけないの？

A どのような取組にするか具体的な姿を示すことで、保育のヒントになり、可視化につながるからです。

(1) 段階的な基準として評価指標を設定する方法

ここに示す例は、**重点的に取り組む目標の達成に向けた取組や成果を質の変化の段階で捉える方法**である。保育の質向上に向けた取組をイメージしながら設定するが、初めて評価指標を設定する場合には、P.10に示す「(2) 多面的な取組や姿で評価指標を設定する方法」を選択することも考えられる。

P.5に示した「重点的に取り組む目標」を「自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開」に設定した場合の「評価項目」は、

- ㊦ 振り返りの充実による指導計画の改善（教育課程・指導）
- ㊧ 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施（研修（資質向上の取組））とした。

この評価項目の達成状況や達成に向けた取組を把握するために、A園では、以下のように質の変化の4段階で捉える評価指標・基準を設定した。

**評価項目
㊦の例**

評価指標・基準の設定の例

重点的に取り組む目標；自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開

評価項目；振り返りの充実による指導計画の改善 【教育課程・指導】の分野

取組指標		成果指標	
4	振り返りの記録を定期的にまとめて指導計画を改善する	4	幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びを取り入れるようになった
3	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える	3	幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった
2	幼児が自然と触れ合っている姿を記録し幼児の興味・関心を捉える	2	幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった
1	自然と関わる遊び等を保育に取り入れる	1	幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった

※ 上記の評価指標は、4に示す取組をすると、4の成果につながるという意味ではありません。4の取組まで頑張ったけれど、成果（幼児の姿）は2の段階だったということも考えられます。この場合、どう考えればよいでしょうか？

Q8 「評価指標・基準」て、なんですか？

A 「評価指標」は、評価項目の達成状況把握の視点で、左図は、取組指標も成果指標も4段階になっています。「自然と関わる遊び等を保育に取り入れる」という取組は[1]で、もう少し頑張ってもらいたいという低いレベルです。同様に、「幼児が自然と触れ合っている姿を記録し、幼児の興味・関心を捉える」は、評価としては普通の段階で[2]となります。このように、取組等のレベルを判断するための具体的な姿を示すのが「基準」です。[3]は少し頑張った、[4]は「ここまで頑張ってくれたら嬉しい」という評価になります。

取組み方が幼児の発達に即していたか、適切であったかなど、取組指標を考え直してみる必要があります。

重点的に取り組む目標；自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開

評価項目；自然に関わる遊びや活動に関する園内研修の実施 【研修：資質向上の取組】の分野

取組指標	
4	自然と関わる遊びや活動に関する園内研修を <u>月1回以上</u> 行う
3	同上 <u>月1回程度</u>
2	同上 <u>2か月に1回程度</u>
1	同上 <u>学期に1回程度</u>

成果指標	
4	教師はもっと面白い遊びや活動、素材等を見付けようとするようになった
3	研修で提案された遊びや素材等を、実際に試してみる教師が出てきた
2	教師が新しい遊びや素材等を探す姿が見られるようになった
1	教師が提示しているのは、自分の扱い慣れている遊びや素材だけである

同じ園内研修でも、成果として教職員集団の育ちを期待している場合には、「どのように進めるか」などの研修内容で示す方法も考えられる。

重点的に取り組む目標；自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開

評価項目；教職員集団としての同僚性を高める園内研修の実施 【研修：資質向上の取組】の分野

取組指標	
4	指導の振り返りについて園内研修で報告し、幼児の発達について協議する
3	保育の振り返りの中で、ねらいについて自らの指導と関連付けて報告する
2	保育の振り返りで、幼児の内面について考え園内研修で報告する
1	その日の保育について、振り返ったことを記録する

成果指標	
4	保育の中で気付いたことや幼児の遊びが充実したことを伝え合うようになった
3	幼児の様子や育ちについて、教師同士で話し合う姿が増えてきた
2	他の学級の様子を見たり連携したりする姿が見られるようになった
1	学級の幼児の興味・関心を捉えようとする

Q9 「取組指標」を数で示すと、「取組を○回すればよい」ということになりませんか？

A 回数だけで取組を評価する訳ではありませんが、園内研修を実施したいけれども月に○回は難しく時間の確保が課題ならば、回数を確保するために職務を効率的にして時間を生み出す努力も大切ですよね。もちろん、左の下段のように研修の内容を具体的に示すと、研修内容の質の向上のヒントになりますので、園が目指す方向に即して、指標を設定することが望まれます。

Q10 「成果指標」は、幼児の育ちの最終目標と考えるのですか？

A 取組の成果として期待する姿ですが、「最終目標」と言うよりは、重点目標と関連させて「このような取組をした時に、幼児たち（教職員）がこんなふうになったら嬉しいね」という目標の可視化につながり、園長と教職員とのコミュニケーションにもなると思います。

参考事例

発達の違いを考えて取組指標を工夫した例

— 青字は、満3歳児の学級用の取組指標 —

満3歳児から保育を行っている幼稚園や認定こども園を運営している幼稚園の中には、年齢によって教師の取組や期待する成果が大きく異なり評価がしにくいこともある。その際には3歳未満と3歳以上の幼児への取組を別に考えることも有効である。

評価項目；幼児の主体的な学びを保证するための環境の構成を行う 【教育課程・指導】 の分野

取組指標	
4	園内外の様々な環境を季節に応じて保育に取り入れ、豊かな体験ができるようにする (幼児が安全に関わりやすいような取り入れ方を工夫する)
3	幼児の発想や願いを受け止め、それを実現できるような素材や用具等を準備(提示)する (幼児の遊びの様子を見ながら遊具等の置き方などを工夫し扱いやすいようにする)
2	幼児の活動の状況に応じて環境の再構成を行う (幼児が興味をもったり触れて楽しんだりできるような玩具や素材等の環境を工夫する)
1	登園時に幼児の興味・関心に合わせた遊びが始まる保育室の環境を準備する

※ この事例では、赤い字で特に保育のヒントになるように強調している

担任の教師が取組指標に即して保育の取組を考えるときに、学年によっては発達を考えると難しいと感じることもある。そのようなときには、上記のように発達に合わせて取組を別に設定することも考えられる。しかし、あまりに細かく各発達の差を考えた指標を設定することは困難でもあり、適切ではない。園全体の方向性や目標等を確認し共有しつつ、それぞれの学年なりの評価指標とすることが適当であろう。そして、全教職員がそのことについて共通理解をすることが重要である。このことについては、成果指標についても同様である。

なお、重点的に取り組む目標や評価項目・評価指標を設定する際の留意点をまとめると、以下の通りである。

Q11 保育の中での教師の取組は、学年によって違うと思いますが、担当している学年に応じて考えればよいですか？

A いいところに気付きましたね。実際にやってみると、そういうことが起きてきます。
左図のように、満3歳児・3歳児についてはこの姿で見ようというような考え方もよいと思います。
認定こども園の中には、0, 1歳児、2, 3歳児、4, 5歳児と分けるところもありました。素晴らしい取組ですが、評価指標を何種類も作るのが大変だということでした。

学年によって幼児の発達が異なるので取組を変える必要があると思います。必要に応じて、評価指標を各学年なりの姿に読み替えるなど、園の実情に応じて、教職員の負担にならないように設定するとよいと思います。

その際、大切なことは、全学年の教職員がそれぞれの段階を共通理解することです。評価の公平性、客観性・妥当性を担保するために重要です。

目標や評価項目・指標を設定する際の留意点

重点的に取り組む目標	園が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて精選した目標 ○○○○○○○○○○	教育活動その他の運営について重点的に取り組む事柄
評価項目(具体的取組)	12の分野の中から項目を選び具体的な取組・方策の視点を示す	～を作成、～を大切にすることはなく 教職員が行う具体的な内容
取組指標・基準	どの程度取り組むか；数値あるいは段階的に、例えば、 ○○を…、△△を…、××を…、☆☆を…、 学期1回、月1種、毎週 ○以上など	教職員が行う具体的な取組を、 回数(頻度)や行動の質的レベルを段階的(4段階程度)に示す
成果指標・基準	取り組んだ結果、成果として期待する幼児や教職員の姿を具体的に示す (幼児がどのように変容したか、教職員がどのように変容したか)	幼児や教職員の姿で

(2) 多面的な取組や姿で評価指標を設定する方法

評価項目にしている取組の内容によっては、取組や成果を段階的に詳しく示すよりも、多面的な取組を行う方が有効と考えられるものもある。その場合には、取組指標や成果指標を、段階的な基準にするのではなく、多面的に指標を設定し、その視点から見ると「十分だと思う」場合を[1]に、「不十分だと思う」場合を[0]で評価する方法も考えられる。この場合、「十分とは言えないが、普通程度には取り組んだ」という程度の取組結果を評価する場合に「0」で評価すると実態より評価結果が低く偏るので、[0.5]と捉えることが妥当である。

なお、この形で評価指標を設定する際には、次の留意が必要となる。

- ① 取組指標・成果指標の数(視点の数)は、全ての評価項目について同じ数とすること。
- ② できるだけ多様な側面から取組を考えること。

Q12 分かってきたように思うけど、実際に作ると難しいかも、…。そんな場合、どうしたらいいですか？

A まず、左図で「重点的に取り組む目標」と「評価項目」、「評価指標・基準」の考え方を確認してみてください。

Q13 でも、読むだけでも難しい…。もう少し、簡単な方法はないですか？

A 「指標」を作るのは難しいという方のために指標設定のヒントとしてP.31から参考資料2を掲載しているので、それを参考に自園の目標や課題に合わせて修正しながら活用するとよいと思います。

Q14 「指標」を段階付けようとすると、どちらがレベルが高いのかわからなくなりそうです。

A 大事に思うことが園によって異なることもあるので、順番が違って大丈夫。でも、段階付けが難しいと感じるならば、多面的な視点で取組を考えとよいと思います。(2)にその方法を示しますので試してみてください。

多面的に指標を設定する例について、P.7に示したA園の事例の評価項目、「㊦ 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施【研修（資質向上の取組）】」の例を示す。

多面的な取組や姿で評価指標を設定する例

重点的に取り組む目標：自然と関わる遊びの充実

評価項目：自然に関わる遊びや活動に関する園内研修の実施 【研修：資質向上の取組】の分野

取組指標		成果指標	
1	園や地域の自然な変化について園内研修で報告したり、遊びに活用したりする	1	教師は、もっと面白い遊びや活動について伝え合う姿が多く見られるようになった
1	自然に関わる遊びの研究保育をする	1	教師は、保育室の環境に自然物を多く取り入れるようになった
1	幼児が自然と関わって遊んでいる姿を記録し、幼児の興味・関心を捉える	1	教師は、自然に関する園外研修に参加するようになった
1	園内研修を年間4回以上行う	1	教師は、幼児と一緒に自然に関わって遊ぶようになった

多面的な視点で捉える方法が指標を設定しやすいのは、取組や成果の深まりより、多様性が求められる評価項目である。例えば、保護者や地域との連携や子育て支援、幼小の連携などが考えられる。次ページの例は「保護者や地域との連携」の分野で、評価項目「保護者との信頼関係の構築」と「教育活動と関連付けた地域との連携の工夫」とした例だが、指標の内容を見てみると、取組が情報発信であったり、懇談会の内容、学級便り、登降園時の挨拶であったりと多面的な取組で目標の達成に近付こうとしているのが分かる。

多面的な取組が有効と考える場合には、こうした設定も考えられる。どのような道筋で重点的に取り組む目標に近付けるか、幼稚園の実情に応じた的確に設定することが求められる。

Q15 なぜ、「評価指標」の数を同じにしないといけないのですか？

A 「評価指標」の数が異なると、それぞれの「評価項目」の評価結果の合計点が、[5]になったり[3]になったりして、どの数値が目標の達成に近付いているのか課題があるのかが読み取れなくなるからです。

例えば、[5]が最高の数値の時に、評価結果が[3]だとすると、取組は普通程度だったことになりませんが、[3]が最高値であれば、評価結果[3]は、とてもよくやったということになります。

そうすると、例えば[3]と言う評価結果の意味が項目によって違うことになり、数値化の意味がなくなってしまいますので注意してください。どうしても評価指標の数がそろえられない場合は、割合を活用するなど目標の達成状況が捉えられるようにしてください。(P.17の例の成果指標参照)

評価項目を「保護者との信頼関係を構築する」とした場合の評価指標の例

取組指標	
1	保護者に積極的に的確な情報を発信し、保護者の意見も聞く
1	懇談会等で幼児の育ちを共有する
1	日々の連絡帳や学級便りで幼児の育ちを伝える
1	登降園時に保護者と積極的に挨拶を交わす

成果指標	
1	担任に相談に来る保護者が増えた
1	幼児の育ちや家庭での様子を伝えに来る保護者が増えた
1	保護者同士で幼児のことを話すようになった
1	保護者は、地域の出来事などを話しに来るようになった

評価項目を「教育活動と関連付けた地域との連携の工夫」とした場合の評価指標の例

取組指標	
1	地域の行事や研修会等に参加する
1	地域の方を園行事に招く
1	園外に出掛けて幼児と一緒に地域の方々に挨拶する
1	出勤時や退勤時に地域の方と積極的に挨拶する

成果指標	
1	地域の方々と意見交換し協力する体制ができてきた
1	地域の方々が、幼稚園の教育を理解してくれるようになった
1	地域の方々も挨拶を返してくれるようになった
1	地域の方々が、掲示板の園便りをよく見てくれるようになった

Q16 多面的な視点での「評価指標」は、イメージしやすく設定ができそうな気がします。段階的な指標と多面的な指標を混ぜて作成しても大丈夫？

A 大丈夫です。1 評価項目に対して設定する評価指標の数を、全項目同じにすれば大丈夫です。
慣れるまでは多面的な評価指標の方が考えやすいと思います。
指標の設定に慣れてきたら、保育の質向上を目指して段階的な指標にチャレンジするのも一つの方法だと思います。

Q17 「評価指標」は、いくつ作ればよい？

A 3～4種類（段階）が適当に思いますが、最初は2種類からでも、イメージしやすい方法でやってみることが大切です。

4 保護者や地域住民等の意見や要望の把握

地域に開かれた幼稚園として適切な運営をしていくためには、保護者や地域と教育活動の目標や方法を共有し、連携を深めたり相互の協力体制を築いたりすることを大切にしたい。各幼稚園では、保育参観・参加や行事等を公開し、保護者や地域住民に幼児の育ちや教育活動等に関する情報提供を行うとともに、感想や要望等を聞いたり、アンケート調査を行ったりしている。こうした関わりを通じて捉えた保護者や地域住民の意見や要望等を把握し、自己評価の参考として幼稚園の教育活動その他の運営に反映していくことが大切である。

(1) 日常の保育や諸行事の感想や要望等の聴取

各幼稚園では、日常の保育の中で、保育参観・参加や行事の後に、感想文を求めたり、その感想に応えたりして、保護者や地域住民とのコミュニケーションを活発に行いながら、保育について振り返り、成果を確認して改善点に気づき指導計画を改善している。その意見等の中には、保育の内容だけでなく環境整備や教職員の動き等の運営に関するものもあり、その意見を参考にし、よりよい保育を目指し改善につなげていることも多い。

こうした一つ一つの行為が、カリキュラム・マネジメントの始まりであり、園運営の改善でもある。日常の意見聴取を積み重ね、年度末の自己評価の参考とする必要がある。

(2) 保護者アンケートの実施

多くの幼稚園では、一年間の保育を振り返り、保護者の意見や感想を把握するために、年度末の保護者アンケートを実施している。また、幼稚園によってアンケートの内容は異なるが、保育参観や行事の後に、保育内容や指導の方法、行事の実施方法等に関する感想などを求めて、回答を得ている。そして、その結果について保護者や地域住民等に情報提供したり、HPで公表したりしている。

保護者は、毎日子どもが幼稚園に通う姿を最も身近で見えており、保護者アンケートの結果は、幼稚園や教職員自身が自らの指導や職務遂行の状況を振り返るための貴重な資料である。しかし、保護者アンケートの結果だけで自己評価とはならないので留意する必要がある。

Q 18 日常の振り返りが、カリキュラム・マネジメントにつながるのですか？

A もちろんです。日常の振り返りの過程で、皆さんが幼児の学びを読み取るときに、自らの指導を関連付けて考えていますね。そして、指導内容・方法や指導計画の改善などにつなげるので、日々の振り返りは、カリキュラム・マネジメントの始まりと言えます。

Q 19 保護者アンケートは、自己評価となりませんか？

A はい。保護者アンケートは保育を見て、子どもの育ちにも敏感に気づきの確に評価してくださる貴重な意見です。しかし、自己評価は、園自らが評価するものですから、そのために参考となる資料として活用してください。

5 年度末の自己評価

園長のリーダーシップの下に保育を展開し、教育課程のPDCAを随時行いながら進めてきた幼稚園の教育活動その他の園運営について年度末に全教職員で振り返り、評価するのが年度末の自己評価である。その中で見えてきた自園の教育活動のよさや特色、成果や課題などを確認し、その結果を意識しつつ一年間の園運営等について成果と課題を明らかにし、次年度の教育活動その他の運営の方針や改善策を考えていくことが、実効性のある学校評価につながる。

(1) 年度末の自己評価の準備

① 自己評価の意義や評価指標等、具体的な基準に関する確認

重点的に取り組む目標を始め、自己評価の対象となる評価項目や評価指標については、年度当初に全教職員で共有している。したがって、日常の保育の中でも意識してきたものと思うが、評価を実施するに当たり、学校評価の目的や評価項目、評価指標・基準について改めて確認してから始めると、評価の誤差が少なく、信頼性につながる。

② 保護者や地域住民等の意見や要望の整理

当該年度間に寄せられた意見や要望を整理し、意見等の概要を確認しておく。

③ 各教職員の保育や分担された職務の振り返り

保育の記録等から、自らの指導や学級経営、幼児の育ち等を振り返り、評価指標・基準（取組指標・成果指標）に照らして評価する。

(2) 園長のリーダーシップの下に全教職員で行う自己評価

① 協議のための資料（自己評価の総括表）の作成

園長（或いは、リーダー的な立場の教職員）は、各教職員の評価結果（数値）を整理し、自己評価の総括表を作成し、評価指標の平均値等を記載する。また、評価値だけでなく、各教職員のコメントも大切な意見として取り上げたいものを整理して記載し、協議の進行をしやすいとする。

② 全教職員の協議による自己評価

自己評価の総括表に記載されている事項を中心にその内容について協議し、取組結果と成果結果の数値、コメントの内容から成果や課題について検討し、年度当初に設定した「重点的に取り組む目標」の達成状況を把握する。また、その結果から、次年度も継続していくことや改善策を検討する。

Q 20 準備が大変ですね

A そうかもしれません。
でも、評価指標は、保育のヒントや幼児たちの育ちを確認する視点になっているので、教職員にとっては、評価しやすく、保育の質向上にもつながります。

Q 21 「評価指標」の平均値まで必要ですか？

A はい。平均値は、教職員の振り返りや評価結果を反映させた証明ともいえます。評価の客観性・妥当性を担保することにつながります。

(3) 自己評価の総括について

学校評価の目的の一つは、学校評価の結果の説明及び公表による説明責任を果たし、幼稚園・家庭・地域の連携による園づくりをすることである。そこで、学校評価の結果を端的に説明する必要がある。その準備として全体を一覧できるような総括表を作成するとよい。(P.16, 17参照)

総括表の作成に当たっては、全教職員の意見が反映され、全員で協議しやすいように見やすく整理することが肝要であり、偏りなく記載するよう留意したい。大切なことは、記載された総括表を見て全員で協議するとき、それを見た教職員が、

- ① 各自の評価が反映されている、尊重されていると感じられるようにすること
- ② 書かれていることに対して、率直な意見交換ができるように、コメント欄の整理をすること
- ③ 協議を進める際には、評価項目や指標に沿って意見を求めること

園長のリーダーシップの下に全教職員でこのような協議を進めることによって、評価結果について共通理解が得られるとともに、次年度の教育活動や園運営の方針や改善策に期待がもてるようにしたい。

(4) 自己評価の総括表の例

自己評価の結果のまとめ方に決められた様式がある訳ではないが、総括表を作成して結果を一覧表にしている幼稚園もあるので、その総括表（一部抜粋）を参考までに紹介する。

この園では、重点的に取り組む目標を三つ設定しており、教育活動の充実に関する評価の他に、教職員の育成（資質向上）、開かれた幼稚園（保護者や地域社会との連携）に関する重点的に取り組む目標についても設定している。当該園では、全ての重点的に取り組む目標に関する評価項目と評価指標、及び評価結果を掲載しているが、ここでは総括表に掲載する内容（各欄に記載する内容）を解説することを目的としているので、総括表の上部のみを一部抜粋として表示し、各欄の解説は、吹き出しに記載しているので参考にされたい。

また、この例では、取組指標と成果指標の結果とコメントの内容を総合的に判断して、総括評価の欄も幼稚園が独自に設けている。これも参考として、そのまま掲載する。

Q 22 「自己評価の総括表」まで、作る必要がありますか？

A 特に、作らなければならないものではありません。
しかし、重点的に取り組む目標に向かって全員が力を合わせて頑張った取組を評価した結果が一覧できると、教職員の達成感につながります。また、成果と課題が俯瞰できるので、参考までに示しておきます。

Q 23 この総括表を各教職員が自らの保育を振り返るときに使ってもいいのですか？

A はい。
これを活用すると、整理もしやすいので、是非、活用してください。
また、協議した結果を書き込めば、そのまま自己評価結果の報告の資料としても使えます。

重点的に取り組む目標に関する取組指標と成果指標を段階的に基準として（４段階）設定している幼稚園における自己評価結果の総括表の様式例を示すと、以下ようになる。なお、次ページに記載例を一部抜粋して示す。

自己評価結果の総括表

(様式例)

重点的に 取り組む 目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標		
①		4			4			
		3			3			
		2			2			
		1			1			
		4			4			
		3			3			
		2			2			
		1			1			
		4			4			
		3			3			
		2			2			
		1			1			
②	4			4				
	3			3				
	2			2				
	1			1				

取組指標は、評価項目に示している具体的な方策(保育の展開)のヒントになるような内容や、教職員に対して、「こんな保育をしてほしい」「こうやってみたらよいかもしれない」という園長からのメッセージとなるように工夫する。

成果指標は、重点的に取り組んだ結果、どのような成果があったか、幼児・教職員がどのように変容したかを捉える視点を示す。「幼児がこういう姿を見せるようになったら嬉しいね」と共通理解した指標や、「(教職員が)こんな力を付けたい嬉しい」というメッセージになるように考え設定する。

各評価項目の総括評価とコメントを参考に、重点的に取り組む目標ごとに達成状況を捉える。

取組指標の基準は、
4 これくらい取り組んでくれたら園長としては最高！
3 少し頑張ってこれくらいできるかも
2 これくらい取り組むのは普通程度
1 もう少し頑張ってほしい
というように、どの程度取り組んだか評価の基準を示している。これによって評価の基準が共通理解され、妥当性・信頼性を高めることにつながる。

取組結果の数値は、年度末に教職員が自分の取組を振り返り基準に基づいて評価した結果を集計し、全員の評価の平均値を記入し、その妥当性について協議する。

総括評価欄は、取組と成果に関する評価結果と教職員の意見の内容を総合して、4段階で評価している。
A とても良い B まあまあ良い
C 普通 D 良くない(要検討)

コメント欄は、成果や取組について数値では表しきれない思いを、自らの取組と関連させて記述したり、改善への提案を記述したりした内容について、協議した結果をまとめる。

自己評価結果(総括評価表)の記載例

自己評価結果の総括表

〇〇幼稚園

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
教育活動の記録を生かしたまとめや保育の見直し改善と環境の構成	【教育活動・指導】 幼児期の発達や幼児の学びを踏まえた教材を工夫して環境を構成する。	4	子どもの主体性とねらいとのバランスを考えて、遊具や用具を揃え、環境の構成を工夫する。	2.6	4	子どもは、教師が研究して準備したモノに興味や関心を持ち、活用しながらさらに遊びが発展するようになった。	2.4	B (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊びや生活の姿に合わせ事前準備をしたり、研修会で学んだことを遊びに取り入れたり自分なりに工夫をして準備をするように努めることで、子どもの主体性やねらいが達成できている。 学びを深め子どもが“やりたい”と思える遊びを準備していきたいが、遊具や用具、遊びなどの教材の工夫・研究にはまだまだ課題がある。
		3	子どもの発達にあった遊具や用具等、保育室の環境を考え、子どもたちが遊びやすい用具の置き方を工夫する。		3	子どもの遊びのイメージがわきやすくなった。			
		2	子どもの発達を理解し、一人一人に合った遊具や用具を準備する。		2	子どもは、教師が提示したり環境として置いたモノに興味を示し、触れたり使ったりするようになった。			
		1	一人一人に合った遊具や用具を準備する。		1	子どもは、教師が提示したり環境として置いたモノを見ている。			
	【教育活動・指導】 飼育物や栽培に興味・関心をもたせ、発見や気付きを通し、命の大切さにつなげた援助をする。	4	栽培物の花や実を造形活動に生かしたり食べたりして、命の大切さにつなげた援助をする。	3.5	4	育てている花や野菜の生長に気付き喜んだり、友達に伝えたりするなど、栽培物に関心を持ち、大切に作る気持ちをもつようになった。	3.3	A (3.4)	<ul style="list-style-type: none"> 1年を通して計画を立て、季節に応じて野菜の栽培をしたり、収穫したものを試食したり子どもたちと一緒に世話をしたりする中で、子どもの気持ちに共感したり、生長や変化に気付けるよう声をかけたりしてきた。生長を楽しみに日々観察をし、気付きを友達や教師に伝えるようになったり、木々の葉の色の変化に気付き落ち葉を集める姿が見られたりしている。教師自身が意識して保育を行ってきたことで、子どもたちが興味関心をもつようになり子どもたちの飼育物や栽培物に対する変化が見られてきた。
		3	子どもたちの気付きや発見、活動に応じて、栽培物の生長に気付くような表示や掲示物を工夫したり環境構成をしたりする。		3	自分たちの育てている花だけでなく、園内の花や野菜の様子にも興味をもつようになった。			
		2	季節に応じて種まき、苗植えをして、子どもたちと一緒に生長を楽しむ。		2	当番を楽しみにして、成長や変化に気付くようになった。			
		1	指導計画に基づいて、花や野菜などを育てる活動を保育に取り入れる。		1	当番はするが、興味・関心はあまりない。			
	【教育活動・指導】 日々の振り返りの中で、子どもの姿から発達を捉えたり保育のねらいとの関連から自らの指導を評価し、保育を改善する	4	日々のねらいに即した記録や週日案の改善から、一人一人の発達に必要な経験が得られる保育を創造する。	2.8	4	記録を基に振り返り、PDCAサイクルを保育実践に生かした教職員が 75%以上	3.0	B (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> 週案には、自分の中でねらいや計画性をもった保育ができるよう意識をして、作成・実行・日々の振り返りを行ってきた。記録や振り返りをするのが身に付き、教師同士で具体的にどのような援助をしていくのか、やってみてどうだったのかなど、少しずつではあるが、記録の仕方に工夫をして次の日の保育に生かすことができている。 振り返りの仕方や子どもの捉え方、見方をより深め意識していきながら、今後もPDCAサイクルを日々の実践に生かしていけるようにしていく。
		3	子どもの発達や姿から保育を振り返って記録し、ねらいに即した評価を行い、週日案の改善を行う。		3	同 上 65%以上			
		2	日々の振り返り、反省・評価を重ねながら、発達の時期や年齢を意識した保育を実践する。		2	同 上 50%以上			
		1	日々の振り返りをし、反省・評価を基に、次の日の計画を立てる。		1	同 上 50%未満			

※ この下に、2つの重点的に取り組む目標「職員の資質向上やサービス管理」と「地域に開かれた園づくり」に関する評価項目・評価指標と、それに関する評価が続いているが、ここでは省略する。

6 全方位的な点検・評価と日常的な点検

これまで、重点的に取り組む目標の達成につながる自己評価について説明してきたが、あまりに重点化された目標等を指向するのみでは、園運営全体における力点の置き方に均衡を失する可能性もある。幼稚園が抱える課題等を把握するためには、日々の園運営の中で必要に応じ幅広い「全方位型」の点検等を適宜行うことが大切である。

例えば、**数年に一度、園の取組状況について全方位的なチェック**を行うなどが考えられる。また、一回の評価で全方位的な評価をするのではなく、**3年から5年の間の実施により多岐の分野を評価**していくことも考えられる。

(1) 日々の園運営の中で、幅広い全方位型の点検とは

例えば、

- 園として当然満たすべき法令上の諸基準を満たしているかどうかという合规性のチェック
- 設置者などによる専門的なチェック（例. 施設、大型遊具等の安全基準管理）
- 園務分掌等による担当者を中心としたチェック（例. 避難訓練の実施と実施報告書提出、薬品管理と報告等） など

教育課程編成時の教育週数・教育時数や安全指導の計画等の確認や、環境整備、備品等の点検・管理など、毎年必ず行っていることについて、実施日や結果等の記録を法令遵守の観点から整理・記録し、保管しておくことで年度末の学校評価に活用できる。

(2) 一定期間で多岐にわたる分野の評価とは

例えば、

- 幼児教育の質向上との関連を考えると、「教育課程・指導」の分野の中から「評価項目」を毎年度取り上げ内容を充実させることとし、その他の運営に関する分野が、一定の期間の間に必ず一回は評価の対象として取り上げるように計画的に学校評価を行うことも考えられる。
- その際、一定期間（例えば3～5年間）を見通した学校評価の計画を作成すると、計画的・継続的な学校評価を実施することができる。

Q 24 「全方位的な点検・評価」とは、どういうことですか？

A 皆さんの幼稚園における職務は、教育活動だけではありませんよね。園舎や園庭の環境整備もあれば、教材の管理、外部の様々な施設との連絡もあります。教職員の協力体制、サービスに関する管理や地域住民との折衝、情報提供など、様々な業務を行っています。これらが有機的にうまく機能することによって、教育活動が円滑にそして質の高いものになっていくのです。

こうした運営が、法令に基づいて行われているか、学校教育施設として適切に機能しているか等、幅広い点検をするのが全方位的な点検です。場合によっては、それを適宜自己評価の中で実施することも考えられます。

(3) 全方位的な点検項目の例

「幼稚園における学校評価ガイドライン」には、各幼稚園や設置者において、評価項目・指標等の設定について検討する際の視点となる例として、便宜的に分類した学校運営における分野ごとに例示している。これについては、「あくまで例示に過ぎないものであり、一度にその全てを網羅して取り組むことは必ずしも望ましくない。また、各幼稚園の重点的に取り組むことが必要な学校評価の具体的な目標等を達成するために、必要な項目・指標等を設定することが重要である。」と示されている。

この例示を参考にして、全分野からいくつかの項目を設定してみると、以下のようになる。

全方位的な点検項目・内容の例

適切に実施している項目に☑を記入 不十分な場合には備考欄に記入

項目	内容	☑	備考
教育目標	• 幼稚園・幼児の実態を踏まえた教育目標を設定しているか		
	• 教育目標の具現化に向け、実態を踏まえた中(長)期の目標を設定しているか		
	• 教育目標についての共通理解が図られているか		
教育課程・指導	• 幼稚園教育要領を踏まえ、教育課程や全体的な計画、年間指導計画を作成しているか		
	• 長期・短期の指導計画は、幼児の実態に即して作成されているか		
	• 学年・学級目標に迫る長期・短期のねらいは、適切に設定しているか		
	• 幼稚園教育要領の内容を踏まえ、幼児の発達に即した指導をしているか		
	• ティーム保育などにおける教師間の協力的な指導を行っているか		
	• 日常的に振り返り、幼児理解に基づいて保育の改善に努めているか		
	• 環境の構成を意識した指導の方法や過程を常に工夫しているか		
教育週数・時間	• 遊具・用具、教材・教具を適切に活用し、管理しているか		
	• 教育週数を39週確保しているか		
	• 教育課程に係る教育時間は4時間を確保しているか		

Q25 「日常的な点検」は、自己評価ではないのですか？

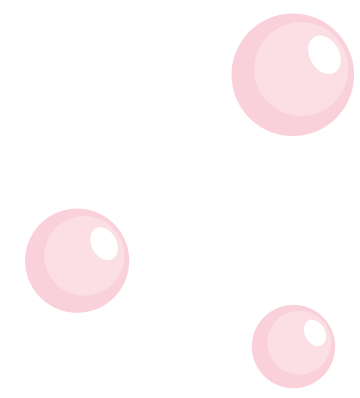
A それだけでは自己評価になりません。日常的な点検等は、そもそも幼稚園（学校）として当然満たすべき法令上の諸基準を満たしているかどうかという合規制や運営・管理的な側面に関するチェックが中心となります。このような点検や詳細な基準適合性などについては、日々の園務分掌や設置者などによる専門的なチェックにより各分野においてきちんと担保されることが重要です。

自己評価においては、例えばそれらのチェックが適切に行われているかどうかや、必要に応じて特に重点を置いて取り組むべき項目について、評価対象にすることが考えられます。したがって自己評価の中で、日常点検のチェック項目を各分野にわたり、逐一取り上げて取り組むことは適当ではありません。

項目		内容	☑	備考
教育課程・指導	特別支援教育	• 園内研修の実施・各種研究会の参加により、特別支援教育への理解を深めているか		
		• 個別の教育支援計画を作成し、全教職員が共通理解をして個に応じた支援をしているか		
		• 特別支援教育コーディネーターの指名など、園内体制をつくっているか		
		• 保護者の思いや願いを受け止め、保護者や関係諸機関と連携しているか		
		• 地域関係機関や行政、専門家と連絡・連携をして進めているか		
保健・安全指導・管理		• 学年・学級経営に生かされるような具体的な保健対策を講じているか		
		• 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発や連携を行っているか		
		• 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連絡体制を確立しているか		
		• 学校安全計画、防災計画、保健計画を作成し、実施しているか (防災訓練、不審者対応、交通安全、生活安全)		
		• 保健日誌、園医執務記録、健康診断記録簿、薬品管理簿等、法令に定められた表簿を作成しているか		
		• 学校保健安全法、学校給食法に基づく検査・点検が行われているか (換気、採光、照度、保温、水質、薬品保管等)		
		• 危機管理マニュアルが作成され、活用、見直しをしているか		
経営・組織・運営	園務分掌・服務	• 能率的、合理的な運営組織、職務内容になっているか		
		• 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか		
		• 職員の配置(係や仕事の分担・割り当て)は適切か		
		• 各種会議や打ち合わせが適切かつ効率的に進められているか		
		• 打合せ回数、時間、内容は適切か		
		• 職員会議は、教育方針の伝達、共通理解の場になっているか		
		• 各種文書・各表簿(幼児指導要録等含む)は、適切に作成・処理・管理しているか		
		• 幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか		
		• 出退勤時刻を管理し、効率よく職務を進める運営を工夫しているか		
	• 教職員は、学校保健安全法、労働基準法等の各種法令の内容を理解し遵守しているか			
経理出納		• 出勤簿、休暇簿、勤怠報告書が作成されているか		
		• 各種会計を適正かつ適切に処理しているか		

Q26 これなら、簡単にチェックができますね。
この全方位的な自己点検表による点検を、自己評価にしてはダメですか？

A はい。それでは不十分です。
全方位的な点検では、俯瞰的に見て、教育活動や園運営が学校施設、組織として、実施すべきことができているかを確認することが目的になりますので、概括的に見ていきます。



項目	内容	☑	備考	
研究・研修	• 研究主題は、教育目標の具現化につながるものであるか			
	• 園内研修の回数、時間、内容、計画・運営は適切か			
	• 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか			
	• 外部の各種研究・研修会、講習会での内容を園内に還元しているか			
学校評価	• 全教職員の共通理解の下、自己評価を実施しているか			
	• 重点的に取り組む目標、評価項目が設定されているか			
	• 学校関係者評価は、自己評価の結果を評価しているか			
	• 学校評価の結果を公表、及び設置者に報告しているか			
	• 評価、資料（諸記録）を集積しているか			
情報提供	• 幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか			
	• 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか			
	• HPの更新、改善、活用をしているか			
	• 各種表簿は、適切な時期、期間、方法で作成・処理しているか			
開かれた幼稚園づくり	校種間交流	• 児童等と触れ合う中で幼児が充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか		
		• 交流の打合せや事後の評価を行い、互惠性のあるものとなるようにしているか		
		• 参観や保育・授業等に参加するなどして、他校種教育を理解しようとしているか		
	社会・家庭・地域の連携	• 保護者、地域に保育公開をしているか		
		• 指導計画に即して保護者を含む地域の人材活用をしているか		
		• 地域協力者、関係機関と定期的に情報交換をしているか		
	子育ての支援	• 地域での行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか		
		• 未就園児の会の回数、内容は適切か		
		• 地域の親子への園庭、施設の開放は適切に行われているか		
		• 保護者からの子育てに関する相談に適切に対応しているか		
	預かり保育	• 他の関係機関、専門家との連絡・連携体制をとっているか		
		• 家庭や地域の実情を踏まえた預かり保育の時間、回数になっているか		
		• 預かり保育は適切な運営がされているか（人材、場所、内容など）		
	• 教育課程に係る教育時間内の活動との関連性を考慮し、一体的に展開しているか			

Q 27 「自己点検表」で評価するならば簡単でやりやすいのに、なぜ？

A 毎年、この項目で実施したか実施していないかを評価すると、カリキュラムと関連させて、教育活動の質を評価することはできませんよね。ですから、重点的に取り組む目標については、特に丁寧に質を評価することが必要なのです。

Q 28 ずいぶん沢山の項目がありますね。点検の場合には、どの程度行ったかなど、細かく確認しなくていいのですか。

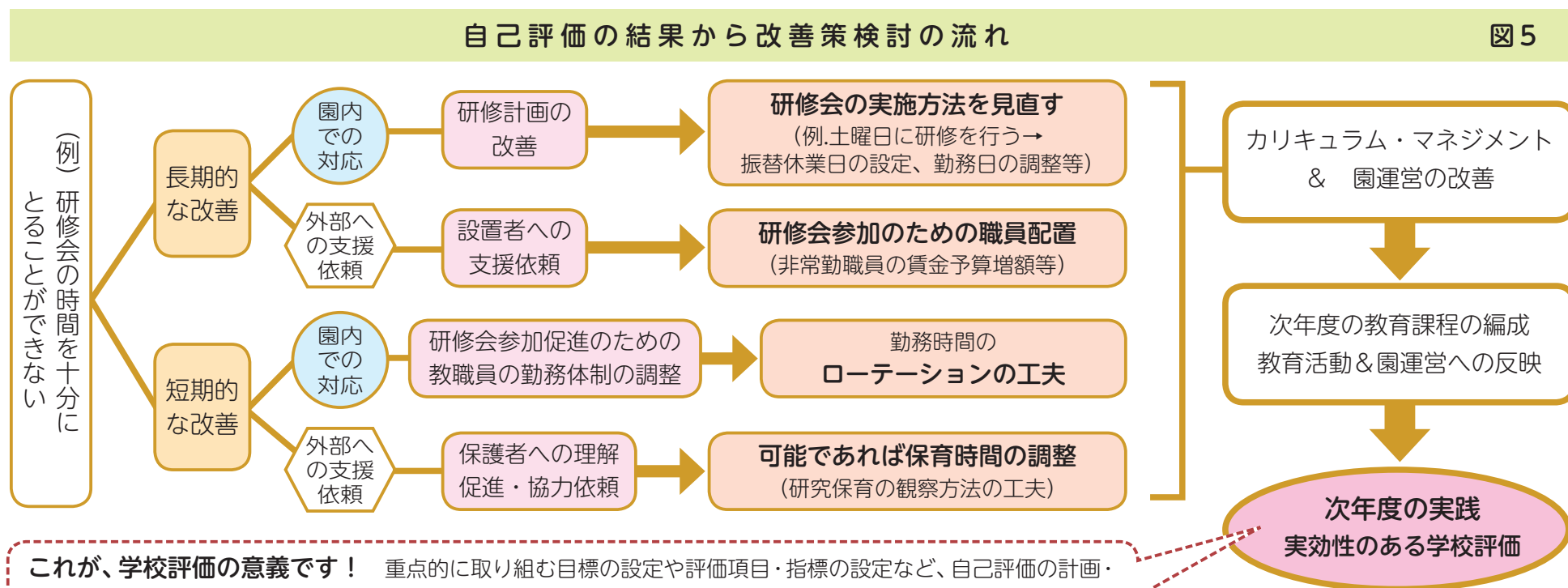
A 自己評価の場合には、評価項目・評価指標で質を確認しますが、点検ではこれを全部、指標を作って評価するのはとても時間が必要であり大変です。
点検で、課題が見付かったら、重点的な目標として細かく見て改善策を考えるとよいでしょう。

7 自己評価の結果のまとめから報告書の作成・公表

自己評価から明らかになった成果や課題について、改善の必要性、時期、具体的な方法等を検討し、その結果を報告書にまとめて学校関係者評価委員会に報告することになる。さらに、学校関係者評価委員会の評価を反映して「学校評価の報告書」としてまとめて次年度の教育課程や園運営に反映することによって、より質の高い幼稚園教育が実現する。これが学校評価の実効性であり、学校評価を実施する意義である。

(1) 自己評価の結果から改善策の検討

自己評価の総括で明らかになった課題について改善策を検討する際には、まず、その課題が緊急の課題ですぐに対応することが求められるものか、長期的な視点で予算等を考えながら課題を解決していく必要があるかを見分ける必要がある。さらに、それらの課題が、園内の教職員の力や努力で解決できるものか、保護者・地域住民・設置者等、外部の理解と支援を得て実現させたい改善なのか、園の実情に即して適切に対応する必要がある。その検討の流れについて、具体的な例で示すと以下ようになる。



これが、学校評価の意義です！ 重点的に取り組む目標の設定や評価項目・指標の設定など、自己評価の計画・準備からここまでの全ての流れが自己評価です。各幼稚園で課題を発見し、それを解決する道筋の中で、必ず教職員の力量を伸ばすきっかけがつかめるはず。そんな学校評価の流れがつかれるように期待しています。

(2) 自己評価の結果報告書の作成・公表

各幼稚園は、自己評価の結果を報告書に取りまとめる必要がある。「幼稚園における学校評価ガイドライン」(P.7) には、「自己評価の結果の報告書には、重点的に取り組むことが必要な学校評価の目標や計画、その達成状況及び取組の適切さ等の評価結果や分析に加え、それらを踏まえた今後の改善方策について、簡潔かつ明瞭に記述する。」と示されている。

① 報告書に記載する内容

報告書の様式は特に決められてはいないが、具体的には、

- ア. 重点的に取り組む目標や評価項目・指標について、共通理解した会議の時期と概要
- イ. 各学期末に行っている保育の振り返りの会議の実施の時期と概要
- ウ. 年度末の総括的な評価の結果の概要

これについては、P.16,17に示した「自己評価結果の総括表」は、重点的に取り組む目標、評価項目・指標と評価結果が一覧できるので、評価結果及びその分析として活用すると、明瞭な記述となる。そして、今後の改善方策とともに概括的なまとめをすることになる。

なお、各幼稚園においては、上記イに示したように各学期末に教育活動の振り返りをしていることが多く、各担任は、学級経営の視点から指導計画や教育課程と関連させて振り返るなどしながら、次の学期の指導の方向性について、全教職員で協議している。また、園務分掌の進捗状況や予算の執行状況を報告し、次学期の運営方針を確認していることが多い。この折に、学校評価の評価項目・指標に基づいて**中間評価として評価する**と共通理解が進み、学校評価の妥当性・信頼性が高まる。**中間評価を行った場合には**、報告書に記載することによって信頼性が高まるので、忘れずに記載したい。

② 結果の公表

学校評価の結果の公表については、自己評価と学校関係者評価の結果を合わせて公表することが望ましい。自己評価の結果のみを公表する場合には、「幼稚園における学校評価ガイドライン」(P.7) に「自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策を、広く保護者や地域住民等に公表することが必要である。」と示され、そのP.28には「自己評価結果公表シート例」が掲載されているので、それを参考とされたい。本ガイドブックでは、学校関係者評価の結果と併せて公表する様式例をP.49に掲載している。

Q 29 えーっ。各学期末に保育の振り返りをしていますが、それが学校評価につながるんですか？

A もちろんです！といっても、一つだけ要件があります。

各学期の振り返りは、各幼稚園が丁寧に行っています。全教職員が各学期の教育活動を振り返りながら、幼児の学びや育ちを確認し、教師間の連携や学年経営についても考えますね。そして、全教職員で学期の指導計画と照らし合わせて次の学期の指導方針を決定し指導計画を修正しています。こうした教育活動の改善が保育の質向上につながるものであり、それを支える園運営にも目を向けて成果や課題を捉える必要があります。

ですから、各学期末の保育の振り返りの際に学校評価の評価項目・指標の視点を加え、振り返りを意識的に学校評価と関連付けて行うとよいでしょう。

Ⅱ 学校関係者評価の具体的な実施方法

1 学校関係者評価の目的と流れ

学校関係者評価とは、保護者や地域住民等の学校関係者等が、自己評価の結果について評価すること等を通じて、自己評価の妥当性・透明性を高め、幼稚園・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的としている。学校関係者評価の実施に当たっては、学校関係者評価委員会を組織することになるが、委員の人数や構成、開催時期や回数、評価の視点などについては、幼稚園や地域の実情に応じて行う必要がある。特に、幼稚園の状況や努力が評価者に理解されるよう十分な情報提供や幼稚園の公開を行うことが大切である。また、評価者は、幼稚園に対して意見を述べるとともに、家庭・地域等においては、幼稚園運営改善のための窓口の一つであり、幼稚園の理解者としてその努力を地域等に伝えていくことが期待される。

① 学校関係者評価委員の選定

自園にとってどのような立場の方に意見を聞くことが有効か、広い視点から考え、選定・依頼する。

幼稚園と直接関係のある保護者等を評価者とするのが適当であり、幼児を基点に幼稚園と密接な関わりをもつ保護者が、学校評価を通じて学校運営の改善に参画することが重要である。このことから、幼稚園に在籍する幼児の保護者を評価者に加えることを基本とする。その他、例えば、

- 評議会、町会、青少年健全育成関係団体など、既存の組織を活用して選定することも考えられる。
- 接続する小学校の教職員や大学の研究者等を評価者に加えることも考えられ、連携の視点からも効果的である。

なお、評価者への就任を依頼する際には、保育参観や評価の取りまとめの作成、幼児に関する個人情報の保護、守秘義務など、どのような負担が生じるかについて、あらかじめ理解を得ることが必要であり、過度の負担が生じないようにすることが大切である。

② 学校関係者評価委員会の開催

初回：

特に開催の回数にきまりはないが、学校関係者評価の目的を達成するためには、以下の内容について情報提供できるようにしたい。

学校関係者評価委員の役割及び幼稚園の教育課程や年間計画等の概要を説明する。

Q 30 学校関係者評価は、しなければならぬの？

A 学校教育法施行規則第67条には、「小学校は、前条第1項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。」と示されています。

※幼稚園にも、この条項は準用されますので、実施するように努める必要があります。

- 幼稚園の状況、経営計画、重点的に取り組む目標など伝えたい内容は多岐に渡るので、要点をまとめた概要版を作成するなど説明を工夫し、委員の意見を聞く時間を十分確保する。
- 意見を求めたいことを項目として示したり、協議後に自由にコメントを記入してもらったりすることも有効である。

2回目以降：

保育や行事の参観と活動に関する情報提供などを行う。

- 保育の参観と合わせて本委員会の開催を年間計画に位置付けると効果的である。
- 行事や幼稚園の状況説明、自己評価の評価方法や保護者アンケートの内容を説明し、意見を求める。

最終回：

自己評価の結果に関する評価及び意見交換を行い、評価を取りまとめる。
評価の内容は、以下の内容などである。

- 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- 重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目等が適切かどうか
- 学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか

2 学校関係者評価の結果報告書作成と設置者への提出

各幼稚園は、学校関係者評価委員会へ提出した自己評価結果と改善策に関する評価について、学校関係者評価委員会の評価を踏まえ、全教職員で改めて自己評価結果を振り返り、学校関係者評価委員会での意見や提言を反映して、今年度の学校評価の結果として報告書に取りまとめ、設置者に報告書を提出し、必要に応じて支援の要請等を行う。

「幼稚園における学校評価ガイドライン」(P.9)には、「学校関係者評価の結果の報告書を、自己評価結果の報告書と併せて作成することも考えられる。」と示されている。

Q 31 学校関係者評価ではなく、保護者アンケートで十分に保護者の意見は聞けるのではないのですか？

A 確かに、保護者の意見を伺うことは重要ですから、多くの幼稚園が保護者アンケートを丁寧に行っています。この結果を、自己評価の過程で参考にするのは大切です。

でも、学校関係者評価の目的は、自己評価結果について評価すること等を通じて、自己評価の妥当性・透明性を高めることです。そして、その評価の過程で幼稚園の現状と課題について幼稚園・家庭・地域が共通理解を深めて、幼稚園運営の改善への協力を促すことを目的としています。

こう考えると、学校関係者評価委員会の中で、保護者の意見には、どのような意見があったのか、十分に参考にしたかどうかなど、自己評価の検討状況を確認していただくと、学校関係者評価の意義や役割が十分に発揮されることにつながります。

設置者への報告書には、学校関係者評価委員会に関する実施状況について、

ア. 学校関係者評価委員の名簿、イ. 委員会の実施日程・内容、ウ. 評価結果及び幼稚園への助言等について記載し、自己評価を行う際に利用した保護者や地域住民からの意見や要望、アンケートの結果等の具体的な情報・資料を含めるとよい。

そして、各幼稚園は学校評価を実効性ある取組とするため、自己評価及び学校関係者評価の結果並びに今後の改善方策を次年度の重点的に取り組む目標等の設定に反映し、具体的な取組の改善を図ることに活用することが重要である。それによって、全教職員の参加によるカリキュラム・マネジメントの実現につなげ、報告書に取りまとめた内容を次年度の教育課程編成に生かす取組となる。

Ⅲ 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表及び説明

各幼稚園は、自己評価及び学校関係者評価の結果について、それを踏まえた今後の改善方策と合わせて、園便りへの掲載等の方法により広く保護者や地域住民等に公表する。

なお、評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策の公表に当たっては、適宜公表する内容等を工夫することが大切である。その際、提出した報告書に関する設置者の理解の下に、「評価結果とその分析」「課題解決に向けた次年度の取組」などの視点から、公表内容を整理する。特に公表は、保護者や地域との連携・協力の機会になるので、公表が一方通行にならないように、直接説明できる保護者会や懇談会の機会等を活用することも考えられる。さらに、幼稚園のホームページや地域広報誌への掲載などの方法により広く保護者や地域住民に周知することが求められる。

Q 32 「学校関係者評価」をしたら、公表もしなければいけないの？

A はい。学校関係者評価の実施・公表は努力義務となっています。せつかく幼児教育の質向上を目指して、学校関係者評価をして学校評価の妥当性・信頼性を高めたのに、公表しないのはもったいないですね。

現代社会では、組織運営は旧態依然とせず、PDCAを繰り返しながらよりよい方向を目指して努力する姿勢が問われています。

幼稚園がPDCAに取り組んでいる姿を示すためにも学校関係者評価を実施・公表し、地域と共に歩む幼稚園として頑張っている姿を、是非、伝えていただきたいと思います。

参 考 資 料

- 参考資料1 本ガイドブックにおける学校評価に関する用語の定義
- 参考資料2 評価指標の例
- 参考資料3 ECEQ®を活用した自己評価の方法の例
- 参考資料4 Q & Aの質問内容の一覧
- 参考資料5 学校評価の結果公表の様式例

参考資料1 本ガイドブックにおける学校評価に関する用語の定義	<p>自己評価と学校関係者評価で使用する用語について、簡潔に解説する。</p>
参考資料2 評価指標の例	<p>評価指標は、各幼稚園の課題に対応し、各幼稚園の実情に応じて設定されるものであるが、実際に評価項目・指標を設定することの困難さを感じている幼稚園が多いことが課題となっている。そこで、ここでは実際に評価指標をどのように設定すればよいか、各園で取り上げられることが多いと思われる評価項目を想定し、それに関する指標の例をいくつか挙げることにする。</p> <p>評価項目は、具体的には重点的に取り組む目標の達成を目指して取り組む内容であり、評価指標は、目標にどの程度近付いたかを見ることになるので、重点的に取り組む目標によって取組の道筋は異なる。本参考資料の評価指標を活用する際には、P.31に示す取組の道筋を参考にして、各幼稚園が設定する重点的に取り組む目標等の実情に即した評価指標を活用されることが望まれる。</p> <p>大切にすることは、目標の達成に向けて、教職員の実践のヒントとなるように評価指標をどのように示せばよいかについて考えることである。各幼稚園それぞれの道筋が考えられるので、実情に応じた取組になることを念頭に活用を工夫されたい。</p>
参考資料3 ECEQ®を活用した自己評価の方法の例	<p>私立幼稚園において実践されている学校評価の実施支援システムを活用して、公開保育によって気付いた自園の課題から自己評価を充実させる方法について、参考となるような方法を簡潔に紹介している。ECEQ®の実践を通して園内の学びを深めていることをカリキュラム・マネジメントのきっかけとして園内の教育活動の内容や運営の充実につなげようとする試みである。保育の質向上を目指したECEQ®を実施する際の参考として活用されたい。</p>
参考資料4 Q&Aの質問内容の一覧	<p>各項目の実施方法について理解を深めるためのQ&Aの質問内容に関する一覧を掲載する。そこから読み進め、内容を理解する方法も考えられる。</p>
参考資料5 学校評価の結果公表の様式例	<p>結果の公表の様式について、「幼稚園における学校評価ガイドライン」に示されている様式を参考にしつつ、新たに学校関係者評価に関する記述欄も加えている。</p>

参考資料 1 本ガイドブックにおける学校評価に関する用語の定義

(1) 自己評価で使用する用語について

自己評価とは、各幼稚園の教職員が行う評価である。各園で設定した当該年度の教育活動や園運営に関する目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものであり、自己評価で使用する用語を簡潔に解説すると以下の通りである。

① 「重点的に取り組む目標」とは

学校が教育目標の実現を目指す上で、**当該年度に重点を置いて取り組む目標**である。重点的に取り組むことが必要な当該年度の目標や教育計画を設定する際には、

- 短期的に特に重点を置いて目指したい成果・特色や取り組むべき課題
- 前年度の学校評価の結果及びそれを踏まえた改善方策
- 保護者、地域住民等の意見や要望、課題等に基づき、具体的かつ明確に定める必要がある。

② 「評価項目」とは

重点的に取り組むことが必要な目標等の達成に向けて園が取り組む具体的な取組などである。「幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂] 文部科学省」(P.19~22) では、幼稚園が行う教育活動その他の運営について、下記の12分野で「評価項目・指標等を検討する際の視点となる例」を示している。その視点を参考にして、評価項目を設定することになる。

幼稚園が行う教育活動その他の運営に関する分野

- | | | | |
|----------------|---------------|-------------|----------|
| • 教育課程・指導 | • 保健管理 | • 安全管理 | • 特別支援教育 |
| • 組織運営 | • 研修（資質向上の取組） | • 教育目標・学校評価 | • 情報提供 |
| • 保護者・地域住民との連携 | • 子育て支援 | • 預かり保育 | • 教育環境整備 |

③ 「評価指標」とは

「評価指標」は、「評価項目」の達成状況や達成に向けた取組の状況を的確に把握するための視点で、「取組指標」と「成果指標」がある。

取組指標

「**取組指標**」は、評価項目に示した取組の達成状況や達成に向けた取組についての的確に把握するための視点となるものである。「どのような取組」をしていれば「十分取り組んでいる」と判断するのか、或いは「取組は不十分」と判断するのか具体的な取組を示す必要がある。また、「**成果指標**」は、取組の成果として期待する幼児（或いは教師、保護者等）の姿を具体的に示すものである。取組指標と成果指標を評価の視点や基準とすることによって、「取組」の内容やプロセスと「成果」を関連付けて評価することができ、保育の質向上につなげることができる。

成果指標

④ 「保護者アンケート」 とは

多くの幼稚園では、様々な教育活動や行事を実施した後に、保護者や参観した地域住民に対し、活動内容や実施方法等についての感想等を尋ねている。これは、それぞれの教育活動等の成果や課題を捉える貴重な資料である。

また、年度末に教育活動や園運営に関する全般的なアンケート調査を実施している幼稚園もある。保育の営みについて幼稚園が自らの保育を振り返るだけでなく、保護者や地域住民の評価や要望等を参考にすることは、客観性を担保する上で有効である。

※ しかし、これらのアンケート等については、自己評価をする際に、幼稚園の教育活動の成果や課題を見いだすための参考資料とするものであり、保護者の評価をそのまま自己評価の結果とすることはできないことに留意する。

⑤ 年度末に行う 「自己評価」とは

各教職員が園全体の教育活動や園運営等について振り返り、評価するものであり、設定した評価項目等を用いて目標の達成状況や達成に向けた取組の状況を把握・整理する。その結果を基に、これまで進めてきた教育活動その他の園運営に関する取組が適切かどうかを評価し、その結果を踏まえて今後の方策を検討する。

※ 評価項目や評価指標のイメージを共有し、妥当性を高めるために、中間評価をすることも考えられる。

(2) 学校関係者評価で使用する用語について

学校関係者評価とは、保護者や地域住民等の学校関係者等が、自己評価の結果について評価すること等を通じて、自己評価の妥当性・透明性を高め、幼稚園・家庭・地域が幼稚園の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的としている。

① 「学校関係者評価委員会」 とは

保護者、地域住民、青少年健全育成団体など、幼稚園と直接関係のある者を評価者とする組織である。

学校関係者評価は、自己評価の結果について評価を行うことを基本としており、中心となるのは、以下のようなことである。

- 自己評価実施の手順や内容に関する検討
- 自己評価結果報告の内容及び改善策（案）に関する検討
- 重点的に取り組むことが必要な目標や計画・評価項目等に関する検討
- 幼稚園が行った自己評価結果に関する助言及び改善への協力体制づくり など

② 「幼稚園からの情報提供」 とは

学校関係者評価を的確にするためには、幼稚園の状況や努力が評価者に十分に理解される必要があり、そのために十分な情報提供等を行う。

情報提供の例として、以下のようなことが挙げられる。

- 学校関係者評価委員会の役割についての説明
- 幼稚園の教育活動や運営についての理解を進めるための資料提供
- 折々の教育活動の解説、保育参観等の機会の設定 など

参考資料2 評価指標の例

ここでは実際に重点的に取り組む目標から評価項目を設定した後、評価指標をどのように示せばよいか、各幼稚園の実情に即した道筋を考える方法の例を示す。質の向上を目指す保育のヒント、取組のヒントとなる道筋を考えてみよう。

例えば、重点的に取り組む目標を「自然に関わる活動の充実」とし、評価項目を「振り返りの充実による指導計画の改善」とした場合に、どのような取組指標の設定が考えられるだろうか。指導計画の改善までつなげるための取組（手立て）は、以下の①～⑧のように多様な例が考えられる。こうした取組の中で、自園で特に力を入れて取り組みたいことを4種類選ぶとしたらどれになるだろうか。

重点的に取り組む目標；「自然に関わる活動の充実」

評価項目；「振り返りの充実による指導計画の改善」とした場合、

以下の取組のうちどの取組を教師に意識付けたいか、指導計画の改善までの道筋は、教師の力量や関係によって異なるので、各園の実情に即した道筋を考えてみよう。下記の③→⑥→④→⑦の道筋（案1）を考える園もあれば、⑧→②→②→⑦の道筋（案2）を選ぶことも考えられる。その道筋が評価項目である指導計画の改善につながる段階となれば、4段階の評価指標とすることができる。

- ① 幼児が自然と関わっている姿を捉え、その遊び（自然との関わり）が充実するような遊具・用具を、使いやすく環境の構成をする（幼児の状況を捉えた環境の構成の視点）。
- ② 自然と関わる遊び等を保育に積極的に取り入れ、振り返りで気付いたことを、明日の保育に生かす（日々の指導・週日案の改善）。
- ③ 保育の記録に、幼児が自然と触れ合っている姿について記述し、幼児の興味・関心を捉える（記録の仕方）。
- ④ 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える。
- ⑤ 自然環境を見直して保育に取り入れたこと（研究保育を含む）を振り返り、教師間で共有し、指導に反映する。
- ⑥ 振り返りの記録を定期的にまとめて、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える。
- ⑦ 季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす。
- ⑧ 自然に関わる遊びを充実させる援助ができるように、自然に関する知識を深める。
（教師の基礎的な知識・技能の視点）

Q 33 「指標」ってこんなに沢山考えなければならないの？

A いいえ。これは例示なので多面的に示しています。各園では、評価項目の達成に向けて、どのような取組をしていくのが効果的かを考えて、4つくらいの取組を決めるとよいと思います。この例示は、あくまでも皆さんが取組指標となる取組をイメージするヒントとして並べました。下線は、その指標のキーポイントとして強調して示しています。

次ページから示す評価指標はこんなに沢山例示しません。この取組指標の考え方を参考に、自園の実態に即した取組を段階的に、或いは多面的に並べてみてください。そして、迷ったらここに戻ってヒントを探ってください。

(1) 参考事例の活用方法

同じように自然と関わる活動を充実させるために、振り返りの充実による指導計画を改善することを目指すときに、幼稚園の実情によって、どの取組が効果的なものになるか否かは、各園の実情によって異なる。そこで、どのような取組によって重点的に取り組む目標や評価項目に示した取組の達成のために歩む道筋は、幼稚園によって異なって当然で、前ページに示した **(案1)** の道筋を選んで下図のようにするか、**(案2)** のようにするかは、各幼稚園の環境や教師の得意分野、やりやすさなどを考慮し、より自園の改善につながりやすい方法を選ぶことが重要である。

記録から幼児の実態を捉えて、指導計画の改善につなげようとする道筋の例
案1 (③→⑥→④→⑦の道筋の例)

取組指標の設定	
4	季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす
3	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える
2	振り返りの記録を定期的にまとめて、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える
1	幼児が自然と触れ合っている姿について記録し、幼児の興味・関心を捉える

教師が自分で学び、実践しながら指導計画の改善につなげようとする道筋の例
案2 (⑧→②→②→⑦の道筋の例)

取組指標の設定	
4	季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす
3	振り返りで気付いたことを、明日の保育に生かす
2	自然と関わる遊び等を保育に積極的に取り入れる
1	自然に関わる遊びを充実させる援助ができるように、自然に関する知識を深める

以下に、各分野における評価項目（重点的に取り組む目標の達成に向けて行う取組）の達成状況や成果を把握するための評価指標の例を示す。多くの評価項目について例示するので、評価指標の例は5～7例くらいになっているが、P.31に下線を付して示しているキーポイントを参考に、自園の実情に即するようにイメージを広げて工夫することが求められる。

Q 34 P.31に示されている「評価指標」の例は、順番は決まっていないのですか？

A P.31に示されている8個の評価指標は、順番は固定的ではありません。簡単にできることはハードルが低いと思います。幼稚園の実情に即し、ハードルの低いことから順に基準(1～4)を当てはめればよいでしょう。

Q 35 「評価指標」は、このように沢山示されている中から選べばよいの？

A はい。最初は、ここから選んでもよいと思います。そして、何回か評価指標を設定するうちに、自園で実現しやすい指標に変えていくとよいでしょう。また、ここでは「自然と関わる活動の指導計画の改善」の道筋ですが、これを「○○遊びに関する指導計画の改善」の道筋に応用して考えられますので、工夫してみてください。

(2) 評価指標の参考例

各分野における多様な取組指標・成果指標の例を示すが、保育の質向上につなげる学校評価を目指すために、①教育課程・指導の分野については多様な評価項目に関する指標を例示している。各園の重点的に取り組む目標に即して、実情に近い指標例を選んだり実態に合うように言葉や表現を変えたりするなどして、実情に合わせた自己評価が実践されるよう期待する。

評価指標	取組指標の例	成果指標の例
① 教育課程・指導		
評価項目	幼稚園教育要領第2章に示すねらい及び内容を意識した保育の実現	
	<ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園教育要領第2章に示すねらい及び内容が、自園の教育課程・指導計画にどのように位置付いているかを確認する • 自園の指導計画について、幼稚園教育要領第2章に示されたねらい及び内容、「遊びを通しての総合的な指導」の観点から見直す • 幼児が展開する遊びの見通しをもつと同時に、自園の指導計画を考え合わせながら翌日の指導計画を立案する • 5領域の視点から、自園の指導計画を見直す • 自分が捉えた幼児の発達の様子を園の指導計画と照らし合わせてみる • 翌日の保育のねらい及び内容を指導案に記載し、振り返りを記録する • 保育の振り返りで、幼児の学びを捉えるとともに、自分の指導と関連付けて評価する • 評価の結果から、指導案に記載したねらい及び内容の適切さについて見直す • 指導の見直しから、指導計画の改善につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児は、教師が遊びを提示するのを待っていることが多い • 幼児が楽しそうに遊ぶ姿が増えてきた • 幼児が新しい遊びを考え出したり、自分から環境に働き掛けたりするようになった • 楽しんでいた遊びを繰り返したり発展したりするようになった • 幼児は、多様な遊びを展開するようになった • 自分だけでなく、友達と一緒に遊ぶことを楽しむようになった • いろいろな遊びに興味をもったりチャレンジしたりするようになった • 興味をもったことにじっくり取り組むようになった • 友達が面白がっていることに興味をもって自分もやってみようとするようになった • 友達と共通の目的を達成するために考えたり試したりする姿が見られるようになった <p>※ 全ての評価項目について言えることですが、成果は多様な視点が考えられます。各園が重点的に取り組む目標に即して、指標を工夫されるとよいと思います。</p>
評価項目	幼児一人一人が自己発揮できるための指導	
	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児一人一人をよく見る • 保育の振り返りや記録から、一人一人の幼児の内面を理解する • 幼児理解を深め、一人一人に合った配慮や援助を考える • 幼児理解したことに基づいて、幼児と関わってみる • 幼児と関わってみて、予測したことと異なる動きについて考えてみる • 振り返りの記録を整理し、一人一人が自己発揮できる場面について考えてみる 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児たちは喜んで登園している • 好きな遊びを見つけて遊ぶようになった • 好きな遊びに集中して遊ぶようになった • 遊びの中で、自分の思いや気持ちを出せるようになった • 友達の思いも受け入れるようになった • 友達と気持ちを出し合いながら遊ぶようになった • 自分でできることに粘り強く取り組むようになった

取組指標の例		成果指標の例
評価項目	幼児が意欲的に遊びを進めるための環境の構成	
	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児が手に取りやすいところに遊具・用具・素材等を準備する • 幼児の遊びや興味・関心に応じた遊具・用具・素材等を準備する • 幼児の発達に即したものを環境として置く • 幼児が必要と感じたときに、タイミングよく遊具・用具・素材等を提示する • 美しいものや様々な感触・感覚を楽しめるような遊具・用具・素材等を準備する • 不思議さを感じるものや仕掛けのあるものなど、考えたり工夫したりしたくなるようなものを準備する • 幼児の興味・関心や育ちに応じ、遊具・用具・素材等が自由に選べるように準備する • 幼児自身で場を作ったり、準備したりできるように材料・用具等を分類したり扱いやすいように置いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児は、環境として置いてあるもの（遊具・用具・素材等）を見ていた（興味を示さなかった） • 環境として置いてあるものに興味を示し、触れたり試したりしたりするようになった • 興味をもったものを自ら選んで遊びに取り入れるようになった • 興味をもって繰り返し遊んだり試したりするようになった • 環境として置かれたものからイメージを広げ、自分たちで遊びをつくり出したり発展させたりするようになった • 遊びに必要な遊具・用具・素材等を探したり教師に相談したりするようになった • 自分たちでアイデアを出しながら遊びを楽しむようになった
評価項目	自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の展開	
	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児の表情に着目し、言葉にならない幼児の思いに着目する • 保育の振り返りや記録の分析から、幼児の思いを推測してみる • 幼児なりの表現を受け止め、言葉にして返していく • 幼児が表現している言葉を受け止め、伝わった喜びを幼児が感じ取れるように、共感したり言葉で伝えたりする • 思いや言葉を伝え合う喜びが感じられるような場の設定や遊びの内容等の工夫をする • 幼児の興味や発達に適した絵本や紙芝居などを読み聞かせる 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の気持ちを伝えようとするようになった • 自分の思いや知っていることなどを、聞いてもらいたがるようになった • 自分の思いが伝わったことに満足感を味わうようになった • 教師や友達との言葉のやり取りを楽しむようになった • 遊びの仲間同士で共感したり考え合ったりする喜びを感じるようになった •トラブルが起きたときに自分たちで考え、解決しようとするようになった • 教師や友達に自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりするようになった
評価項目	意欲的に身体を動かして遊ぶ環境の構成を行う	
	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児が体を使って遊んでいる姿を記録し、幼児の実態を捉える • 幼児の興味・関心に応じた遊びを取り入れ、多様な動きが経験できるようにする • 幼児の遊びの流れや、実現しようとしていることなどを理解しながら、園庭全体の空間や遊具の配置を工夫する • 様々な遊びを通して、他学年同士が交流し合ったり一緒に遊んだりする機会をつくる • 幼児期の運動発達について教職員で学び合い、指導計画に取り入れる • 幼児の遊び方を捉え、危険な場所、物事、状況に応じた安全指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 園庭で全身を思い切り使って遊んだり、多様な遊びをしたりするようになった • ルールを理解して様々な集団遊びを楽しむようになった • 他学年の遊びに関心をもち、仲間に加わって遊ぶようになった • 何度も繰り返ししたりチャレンジしたりするようになった • 友達と一緒に運動することに楽しさを感じ、遊び方を工夫しながら多くの動きを取り入れたりするようになった（バランス、用具の操作なども） • 安全について考え、安全に気を付けて行動するようになった
<p>※ このような取組指標や成果指標の考え方を、他の活動（“製作”や“音楽的・身体的な表現”等の活動）などと共通する部分があると思います。応用していろいろ考えてみてください。</p>		

取組指標の例		成果指標の例
評価項目	幼小の円滑な連携・接続に向けた指導の工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と連絡し、互いのねらいを共通理解して交流活動を行う 幼小交流で、子ども同士と一緒に遊んだり、活動したりする機会をつくる 交流後に教師同士が振り返りを行い、次回の交流が発展するように計画をたてる 幼稚園と小学校との指導方法等の違いを踏まえ、幼児や児童の発達を捉えた環境の構成や教材を工夫する 小学校の授業参観に行き、小学校教育について理解を深める 小学校の教師に対し、幼児の育ちについて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で説明する 幼小接続期のカリキュラムについて理解を深め、指導計画の作成や実践・評価をする 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が、小学生との交流を楽しみにするようになった 幼児は、交流を通して小学生に憧れや親しみをもつようになった 幼児は、小学校生活について知り、関心をもつようになった 幼児は、時間や流れを意識し、遊びや生活に見通しをもって行動するようになった 幼児は、遊びや生活の中で自分のめあてや課題をもち、諦めずにやろうとするようになった 幼児は、気付いたこと、考えたことを言葉で表すようになった 幼児は、自分の力を発揮して、自信をもって行動できるようになった <p>※ 幼小の接続について、⑥の研修（資質向上）の取組の評価項目で設定する場合には、教師の変容の姿で捉えることとなります。(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師は、小学校の教師と積極的に連携をとるようになった 教師は、接続期の教育内容について考え、指導計画の改善を考えるようになった 小学校での交流の様子を、職員会議で報告するようになった 教師同士で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について話すことが多くなったなど、多様に考えることができます。
② 保健管理		
評価項目	健康に関する幼児の意識を高める指導の工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防に関する話をする 教師が、うがい・手洗いなど率先してモデルを示す 感染予防に必要な用具や場を適宜設定して環境を構成する 幼児が自分で手洗いをするを促す図などを分かりやすく掲示する 健康（感染予防）に関する絵本やポスター等を幼児の目につくところに掲示する 保育室だけでなく、手洗い場等の衛生管理にも気を付けて環境を構成する 保護者にも感染予防に関する協力依頼をする 	<ul style="list-style-type: none"> 教師等に声を掛けられたら、手洗い・うがいをする 教師に声を掛けられなくても、手洗い・うがいをするようになった 幼児は必要感をもって手洗い・うがいをするようになった うがいをしない友達に、促す言葉や確かめる言葉を掛けたりするようになった 感染予防に関する話をしたり、見聞きしたニュース等について話したりするようになった 幼児が健康を意識して生活をするようになった

取組指標の例		成果指標の例
評価項目	日常の健康観察や疾病予防の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> 視診を徹底し、幼児の健康状態を把握する うがいや衣服の調整等、必要感をもって病気の予防ができるように指導する 保健計画を実施する中で、規則正しい生活習慣づくりを繰り返し指導する 感染症が発症した際のマニュアルを作り、最新の情報を基に随時更新する 健康診断や身体測定を行い、自らの成長に気付かせる 感染症予防のための確認事項の一覧表を作る 保護者に規則正しい生活習慣づくり、感染予防対策等を啓発する 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起きをするようになって、遅刻が減ってきた よく噛んで食べ、歯磨きを進んでするようになってきた 進んで、うがい・手洗いや衣服の調整をするようになった 健康への意識が高まり、友達の欠席に気付くと心配するようになった 感染に関するニュースや情報に興味をもつようになってきた 換気・消毒の大切さが分かるようになってきた
③ 安全管理		
評価項目	安全点検や教職員・幼児の安全対応力を高める	
	<ul style="list-style-type: none"> 保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じたときに、幼児と一緒に安全について考える 安全計画に基づき、避難訓練等を行い、幼児の安全に対する意識を育む 防災頭巾等の点検や扱い方や保管場所について、幼児に意識付ける 保護者会等で家庭での安全な過ごし方を啓発する 計画に従い、遊具・用具・施設・設備等の安全点検日を設定し、月1回は実施する 安全管理に関する様々な計画書・点検実施報告書等は、作成後必ず情報共有する 園内外の危険箇所（死角）や避難路をマップ化し、共通理解を図る 危機管理マニュアルを折々に読み、役割を明確にする 警察・消防と連携し、研修を受け、緊急時の対応を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な状況（物）を発見したときは、近くの大人に伝えるようになった 活動や遊びのきまりや約束を、積極的に守るようになった 幼児の怪我が少なくなった 道具や遊具（用具）の正しい使い方を守って、遊ぶようになった 廊下や階段、通園路等の安全な歩き方等が身に付いた 「おかしも」の約束や避難時の行動が分かり、進んで守るようになった 避難訓練の大切さが分かり、真剣に取り組むようになった 教師の指示や避難放送を聞き、落ち着いて安全な場に避難できるようになった
④ 特別支援教育		
評価項目	特別支援教育の実施と園内支援体制	
	<ul style="list-style-type: none"> 園内において特別支援教育委員会等を組織し、コーディネーターを位置付ける 特別支援教育委員会を月に1回程度開催し、幼児の行動分析やアセスメント等を行い教職員間で共通理解する 個々の幼児の発達の特性を捉えた個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する 個別の指導計画に基づき、担任と担当者が指導内容や指導方法を確認し、連携しながらチーム保育を進める 幼児の就学先の授業参観等を行い、特別支援教育の実情について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを中心に全教職員の協力体制が進むようになった 幼児の発達の特性や課題を捉え、教師同士が相談しながら生活の流れを可視化したり、教材や環境に取り入れたりする等、環境を工夫するようになった 幼児の記録に基づき指導内容や指導方法について共通理解を図り、全教職員で情報を共有し、学び合う姿が見られるようになった 行動記録から発達理解と教材・援助等をPDCAサイクルで捉えるようになった 就学先の小学校等の指導内容や指導方法を理解しながら連携するようになった

取組指標の例		成果指標の例
評価項目	家庭との連携を密にする	
	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートや登降園時の連絡時間に、保護者等の連絡を具体的に進める 保護者から発達状況や家庭での様子を聞き取り、幼児の課題や今後の方向性について共通理解を図る 保護者の理解を得ながら、専門機関と連携し共通理解を図る 幼児のよさや変容等を保護者に伝え、成長を実感し見通しがもてるようにする 就学先の選択については、情報を提供したり、保護者が自主的に就学先と相談したり見学したりできるように双方に働き掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は、保護者の気持ちになって幼児の育ちを伝えるようになった 教師は、保護者の悩み等をよく聞き、信頼されるようになった 関係機関、保護者、園が共通認識をもち、幼児の成長を支え合った 保護者が幼児の姿を前向きに捉え、幼児の育ちに気付いたり教師に伝えたりするようになった 保護者が就学について園に相談したり、小学校を見学したりするようになった
⑤ 組織運営		
評価項目	園務分掌の体制整備と適切な運営	
	<ul style="list-style-type: none"> 担当した園務分掌の遂行、進捗状況の報告・協議等を行う 分掌事務に関する記録を残し、次回に活用できるようにする 分掌の内容について分からないときには、前任者に確認したり上司に指導を仰いだりする 園務分掌の内容を各自が意識できるような示し方を工夫する 得意分野を生かした園務分掌を行う 園務の内容を見直し精選する 	<ul style="list-style-type: none"> 各担当者が自分の役割を自覚し、見通しをもち、計画的に進めるようになった 各担当者は課題や改善点を職員会議で提案するようになった 進捗状況に関して互いに気に掛け、必要に応じて協力するようになった 課題の解決のために、話し合っ改善策を見いだそうとするようになった 報告・連絡・相談が積極的に行われるようになった
⑥ 研修（資質向上の取組）		
評価項目	保育研究を継続的に実施し、指導改善に生かす	
	<ul style="list-style-type: none"> 園の課題に即して、全教職員で研究テーマを設定し、推進計画を立てる 研究主任のリーダーシップの下、全教職員が、研究の目的・仮説・方法について具体的に理解し意欲的に進める 公開保育や事例研究を通して、環境の構成や教師の援助などの視点から分析し、指導力の向上につなげる 継続的に取り組めるように研究日を定め、時間の確保に努める 全教職員が、自分の考えを積極的に話せる雰囲気をつくり出す 年に〇回は園内で保育を見合うように設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ内容を日頃の実践に生かすようになった 全教職員が積極的に環境や教材の工夫をしたり、幼児の姿について話し合ったりするようになった 記録や事例から幼児の姿を分析し、学んだことをまとめるようになった 研究の成果をドキュメンテーションにするなど工夫して、保護者や地域に発信するようになった 研究成果から教育課程・指導計画の改善を図り、カリキュラム・マネジメントにつなげるようになった

取組指標の例		成果指標の例
評価項目	園外研修への参加実施と成果の活用（学び合う教師）	
	<ul style="list-style-type: none"> 園外の研修会に参加する機会を設ける 研修で学んだことを職員会議等で報告する 研修で学んだことを、保育や職務の中で実際にやってみる 保育の中で実践したことを、園内研修等で報告する 研修で学んだことを実践し、良かったことを写真や記録を提示しながら報告する 実践したことの記録などから、保育の改善に向けて提案する キャリアアップのための研修や教員免許状更新講習の対象者は、確実に研修を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 保育について、互いに報告したり見たりして話す姿が見られるようになった 提案されたことを、自分もやってみるようになった 学んだことを生かしている同僚の保育に関心を寄せるようになった 園外研修の報告で聞いたことを、自分の保育に生かそうとするようになった 園外研修の報告を、興味をもって聞くようになった 園外研修に参加する教師のフォローをするようになった
評価項目	幼児の学びを、資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から捉える力の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> 保育の振り返りの中で、幼児の思いを捉える 幼児が遊びの中で身に付けている力や学んでいる内容を捉える 幼児の遊びや生活の様子を記録する 保育の振り返りや記録について、幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から分析してみる 幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解を深める研修会に参加する 分析した保育の記録等を、園内の全教師で話し合い、理解を深める 各学年で、幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する資料を作成してみる 幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が指導計画に反映しているか確かめる 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の振り返りの中で、幼児の育ちを具体的な姿や幼稚園教育において育みたい資質・能力等の視点から捉えるようになった 月や学期の振り返りの中で、幼児の学びや育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして考えるようになった 教師は、自分が理解した幼児に関する理解を、幼児との関わりの中で確認したり修正したりするようになった 幼稚園教育要領解説などを読んだり確かめたりしながら記録を振り返るようになった 幼小の学びの連続性について、幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から考えるようになった 保護者や小学校の教師に対して、幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に基づいて幼児の育ちについて説明できるようになった
<p>※ 日常の保育の中で、理解を進めるための多様な取組が考えられると思います。</p>		

取組指標の例		成果指標の例	
⑦ 教育目標・学校評価			
評価項目 教育活動や園運営の改善につながる自己評価の実施			
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の意義や方法を理解する 重点的に取り組む目標、評価項目、評価指標を全教職員の共通理解の下に設定する 日頃から保護者、地域のニーズを捉える 日常の保育や行事等の取組、成果、課題等を整理し資料化する 重点的に取り組む目標に対する成果、課題、改善策を職員で共有する 自己評価の結果を設置者へ報告する 自分の保育・職務と園全体の教育活動・園運営について関連付けて考える 		<ul style="list-style-type: none"> 教職員の園の運営への参画意識が高まった 担当園務に対して日頃から目標を意識して企画・立案したり、反省点を明確にして改善点を出したりするようになった PDCAの循環が意識されるようになった 保護者や地域の方の園に対する期待や要望を受け止めるようになった 職員会議等で、自分の考えを積極的に発言するようになった 目標の達成に向けて、計画的・協力的に取り組むようになった 	
⑧ 情報提供			
評価項目 伝わる園便りの工夫			
<ul style="list-style-type: none"> 園便りの担当を明確にし、年間のテーマを決める 保護者や地域からの情報を反映する紙面を工夫する 幼児や学級集団の育ちが伝わるように、ドキュメンテーションを工夫する イラストや写真を適切に活用し、「伝わる」「分かる」紙面の工夫をする 町会の掲示板や回覧板による回覧など配布先の拡充を図る 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者から、感想や質問、期待が寄せられるようになった 我が子の園生活に関心を寄せ、聞いてくる保護者が増えた 保護者の肯定的・協力的な関わりが増えた 地域住民からの問い合わせや未就園児親子の幼稚園見学等が増えた 地域の人々が幼稚園に関心をもち、材料の提供など、協力的になった 	
評価項目 適切な情報発信と管理の徹底			
<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理場所を明確にし、管理を確実にを行う 配布物、外部からの問い合わせ等、情報の受信・発信については、管理職に連絡・報告・相談をして確認する 個人情報に配慮した連絡システムの活用を図る 個人情報に関する研修会を年1回企画し、意識を高めていく 緊急連絡は窓口を一つにし、内容を均質・一貫させ、迅速に情報発信を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 職員室の机上や書類保管庫を整理・整頓するようになった 園として一貫性のある対応ができるようになった 幼稚園からの連絡や情報を、迅速に保護者に伝えられるようになった 保護者間の情報発信関係のトラブルや相談件数が減った 緊急連絡のシステムが確立し、定期的に訓練ができるようになった 	

取組指標の例		成果指標の例
⑨ 保護者・地域住民との連携		
評価項目	地域に開かれた幼稚園の確立	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材、場の活用、交流を図る 地域の未就園児親子への支援を拡充する 地域の行事に園庭や遊戯室等、場の提供をする 地域の行事、防災訓練に参加、協力する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報が寄せられるようになった 地域や地域の方を身近に感じ、挨拶をしたり地域の行事や施設に家族で出かけたりするようになった 地域の方との関わりの機会が増えてきた 地域の方たちの活躍の場や地域の子育ての支援の場となってきた 地域の方との安全確保に関する災害時の連携体制ができた 	
評価項目	地域との連携体制の確立	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材、行事等文化財などの情報、活用内容の一覧表を作成する 地域の児童施設、図書館等の連絡会に当事者が参加し情報交換をする 地域住民との連絡会を開き、計画や反省、成果、改善点を話し合う 継続的に行っている行事への協力依頼等に関する連絡の効率化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の地域への関心が高まり、地域とのつながりを保育に生かすようになった 教職員の園運営への参画意識が高まった 必要な情報、支援が適時に得られるようになった 地域から、幼稚園教育や園への関心や理解が寄せられるようになった 	
⑩ 子育て支援		
評価項目	未就園児の会の実施	
<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の会を、月〇回ずつ実施する 在園児保護者から未就園児の会のサポートボランティアを募る 保護者が話しかけやすい雰囲気づくりをする 保護者同士が交流できる場や機会を設ける 降園後に親子で交流できる「お楽しみ広場」を、月〇回は実施する 関係機関と連携し、年〇回の子育て講座を実施する 在園児と未就園児と一緒に遊ぶ場や機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の会の参加者が増えた 教師に信頼を寄せ、話しかける保護者が増えた 保護者同士で情報交換し、ボランティアサークルができた 子育てについて保護者同士で話したり、考え合ったりするようになった 未就園児の保護者と在園児保護者との交流ができた 未就園児の会の参加者からの入園児が増えた 	

取組指標の例		成果指標の例
⑪ 預かり保育		
評価項目	通常の保育と預かり保育の一体的な展開	
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の目的や内容を理解する ・預かり保育の指導計画を立案する ・全体的な計画を作成し、通常の保育と預かり保育を一体的に展開する ・幼児が身体を休めたり、くつろいだりできる空間や場を整える ・預かり保育に適した遊びや教材を準備する ・担当者間での引継ぎ項目を決め、チェック表で確実に引継ぎをする ・学級担任と預かり保育の担当者との連絡ノートを作成する ・学級担任と預かり保育の担当者との連絡会を月〇回行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は、長時間利用時も気持ちが安定し、疲れを見せる幼児が少なくなった ・幼児は、異年齢児との関わりが増えた ・幼児の遊びの幅が広がった ・幼児は、預かり保育の中で年長児が楽しんでいた遊びを、自分たちの遊びに取り込むようになった ・幼児が、預かり保育の家庭的な生活や雰囲気を楽しむようになった 	
⑫ 教育環境整備		
評価項目	遊具・用具の改善を図る	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の動きや視線、使い方を考えた配置や量に配慮する ・遊具や用具に関する新しい情報を得る ・遊具・用具等の特徴や特性を把握する ・遊具・用具等の老朽化や破損状態などについて、定期的に点検し、適切に修繕・管理する ・安全、機能、清潔、美観という視点から見直し改善する ・教材室、体育倉庫等にある遊具、用具、資材等を適切に活用する ・発達や年齢に応じた活用の仕方を工夫し、改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の経験の内容が広がった ・幼児が主体的に物とかかわり、遊びをつくりだすようになった ・幼児の怪我が少なくなった ・物や場が有効に使われ、物的な環境の構成が適切に行われるようになった ・幼児が、物を大切に使うようになった 	

できるだけ、評価指標の多様な視点を示すようにしましたが、評価指標の例を見てくると、段階的に示して保育のヒントとして提示できるものと、多面的に考えた方がよいと感じる例があることに気付いたと思います。どちらでなければならぬということはありません。どのような評価指標が自園の保育の改善につながるかを考え工夫されるとよいと思います。

また、管理的な分野については、全方位的な点検に関するの項（P.18～21）に示したように、詳細な評価指標を設定するよりも点検を的確にすることが大切です。それらの分野の評価指標の例示が少なくなっていますが、活用の際、留意して自園の状況に即して考えることが望まれます。

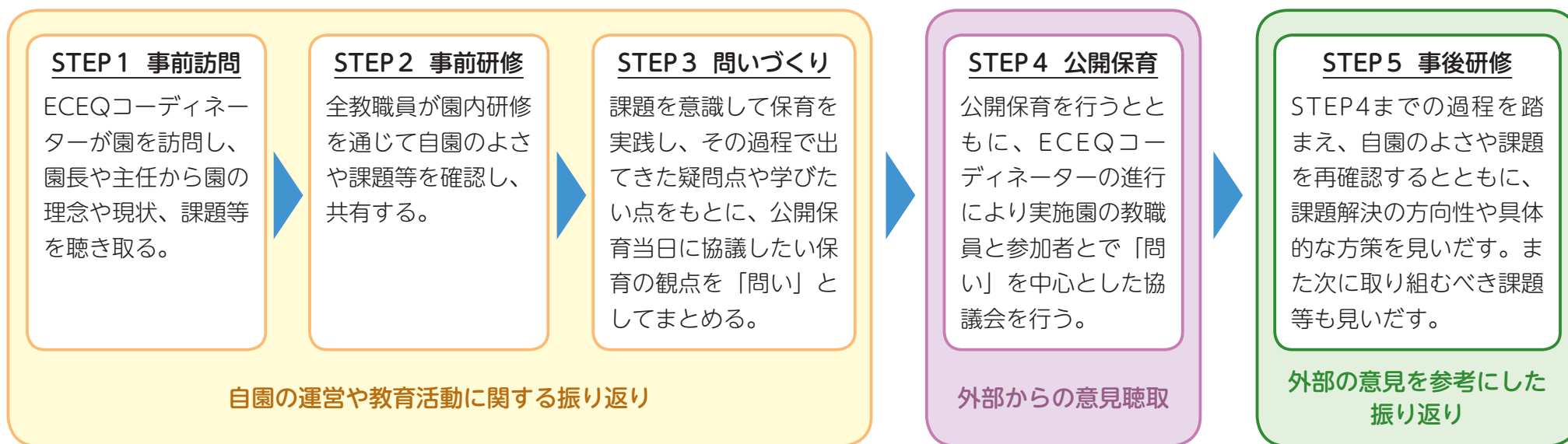
参考資料3 ECEQ®を活用した自己評価の例

各幼稚園では組織的・継続的に教育活動その他の園運営の改善を図るため、毎年自己評価を実施しているが、その取組が形式的なものになっていたり、園長と一部の教職員だけで行っていたりするなど、保育の質向上に結び付く実効性のある自己評価はできにくい状況にある。**自己評価がうまく機能していない園の実態**としては、①教職員全員が自園の課題を明確には把握できていない ②自己評価の取組の過程で、教職員同士の話し合いがあるが、全員が積極的に意見を言える場になっていない ③目標達成に向けた方策を考えて実際に取り組んでみたり、その取組を振り返ったりすることが少ない ④目標達成に向けての方策や取組が適切であるのか自信がもてない 等の悩みを抱えていることが多い。また、**自己評価が機能している園でも**、⑤目標達成に向けて、実践のヒントとなるような様々な意見がほしい ⑥自分たちが気付いていないことで園の課題となるようなことがあれば知りたい 等の声が聞かれる。こうした現状に鑑み、ここではECEQ®（以下ECEQと表記）というシステムを活用することで、各幼稚園がそれぞれの自己評価における問題点を解決しながら、より実効性のある自己評価を実施する方法を紹介する。

ECEQとは、幼稚園等が公開保育を実施し外部の視点を導入することによって自園の教育実践の質向上につなげていく、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」である。ECEQは、次に示した5つのSTEPで進行する。その進行を支援するのが、同機構が実施している養成講座を修了し資格認定を受けた「ECEQコーディネーター」である。

ECEQの主な流れは、図1の通りである。

(図1)



ECEQは公開保育を活用して保育の質を向上させるシステムだが、ECEQを実施することで、自己評価における問題点が解決したり自己評価を充実させたりすることが期待できる。例えば重点目標を「自然に関わる活動の充実」とした園の場合、ECEQ実施の過程で、次のような成果が期待できる。

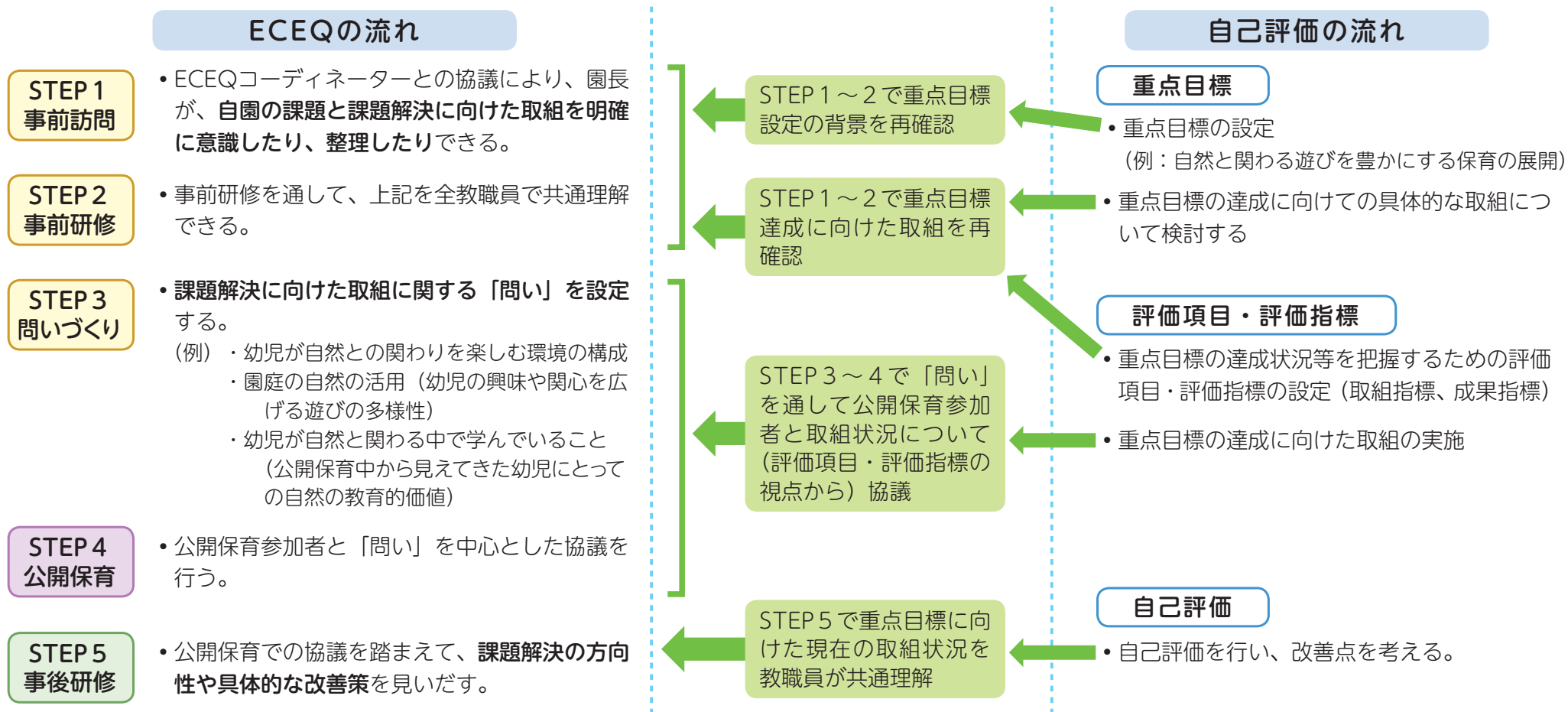
重点目標を「自然に関わる活動の充実」とした園の場合に考えられる成果の例

- ① 園の課題として「自然に関わる活動がマンネリ化している」「園庭の自然がうまく活用されていない」「教職員の自然についての知識が少ない」等が浮かび上がり、そのことを全教職員で共有することができる。
= **STEP 1**・**STEP 2** において全教職員で自園の課題の明確化を行う。
- ② 付箋を使った話し合いを経験し、対話を重ねることで、教職員のコミュニケーション力が向上する。
= **STEP 2**・**STEP 3**・**STEP 4**・**STEP 5** 全員が積極的に意見を言える場がある。
- ③ 幼児が自然に関わっている姿を捉え、その遊びが充実するような環境構成や教師の援助を考える。自らの実践を振り返り、そこでの課題を「問い」として整理し、公開保育の参加者に投げかける。
= **STEP 3**・**STEP 4** 目標達成のための方策を考え、実践の振り返りを行う。
- ④ 公開保育の参加者から、「草花を使っての色水作りでは、幼児が色の変化を予測しながら試したり工夫したりする姿があった」「園庭の花や木の名前が分かりやすく示されていたり、自然に関する絵本が用意してあったりして、環境としてよかった」等の意見をもらい、自分たちの取組に対し自信をもち継続や改善へつなげる。
= **STEP 4** 取組に対する他者からの意見により、継続や改善につなげる。
- ⑤ 公開保育の参加者から「園庭の自然だけでなく、地域の自然にも目を向けるとよい」「戸外では異年齢の幼児と一緒に遊ぶことが多いので、幼児の姿を教職員間で伝え合い、幼児の育ちを捉えたうえで発達に即した指導計画を立てることが必要」等、新たな視点による意見をもらい、それらを参考にして更なる改善の方策を見いだす。
= **STEP 4**・**STEP 5** 外部の視点からの意見を参考に、目標達成に向けての具体的な方策を見いだす。
- ⑥ 地域の自然を保育に生かすという意見をきっかけに、自然だけでなく「地域の施設や人々との連携」という運営面での新たな課題も見つかる。また、活動の範囲が広がることで、園外活動での安全管理という課題も浮かび上がってきた。
= **STEP 5** 新たな課題に気づき、次年度の重点課題へとつなげる。



上記事例におけるECEQの流れを自己評価との関係性について見ると、次の図2のように示すことができる。

園の課題：自然に関わる活動のマンネリ化、園庭の自然が有効活用されていない、教職員が教材としての自然の価値の理解が不十分



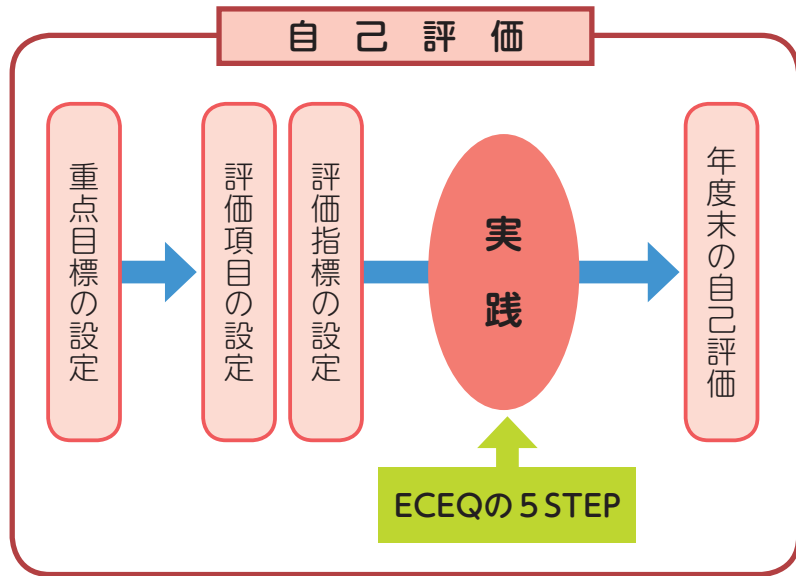
【ECEQの活用により学校評価の実効性がUP】

- ・全教職員で自園の課題を明確にすることができる ⇨ STEP 1～2
- ・付箋を使った話し合いにより、全教職員が積極的に意見を述べ、対話を重ねることができる ⇨ STEP 2～5
- ・保育を振り返り、そこでの課題を「問い」として整理し、公開保育の参加者に投げかけることで、多様な他者と協議できる ⇨ STEP 3～4
- ・公開保育の協議を通して、よさや課題の再確認に加え、新たな視点の助言を得ることで、更なる改善の方策を考える ⇨ STEP 4～5

これまでにも自園において重点目標を設定し教育課程のPDCAと関連付けた自己評価を実施している園については、その自己評価の質を高めるためにECEQを活用する場合のイメージは、図3のようになる。また、自己評価をどのように進めればよいか悩んでいる園については、図4のようにPDCAサイクルを機能させるためのきっかけづくりや園の課題の明確化のために、ECEQを活用することができよう。そのイメージを図に示すと、以下のようになる。

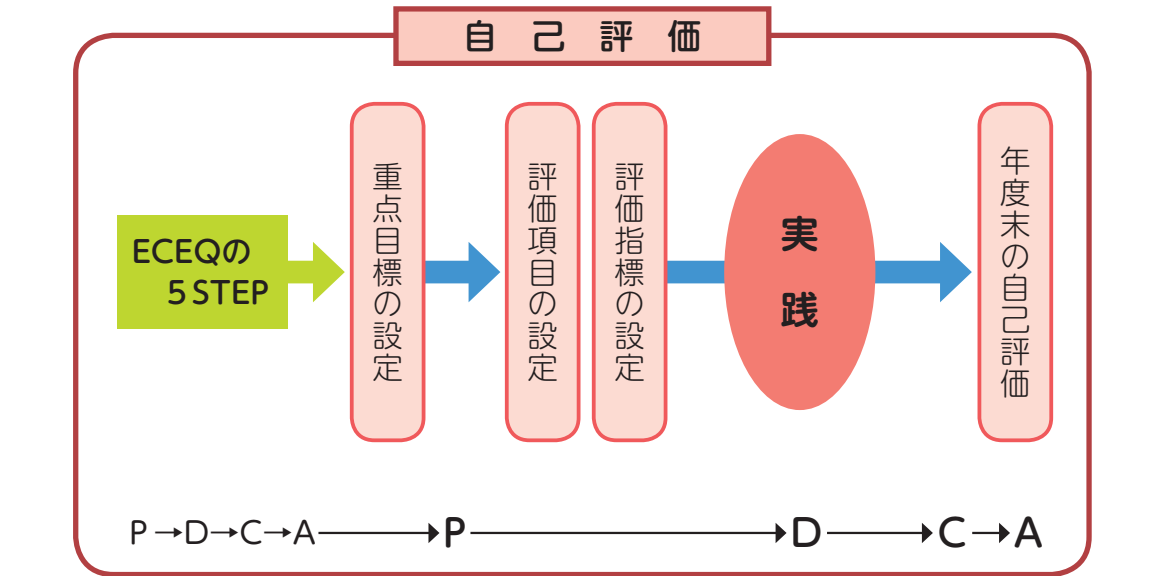
●教育課程のPDCAと関連付けた自己評価を実施している園の例

自己評価の質を高めるために
ECEQを活用する場合のイメージ (図3)



●自己評価をどのように進めればよいか悩んでいる園の例

PDCAサイクルを機能させたり、園の課題を明確化させたりするために
ECEQを活用する場合のイメージ (図4)



公開保育をすることの意義は大きく、ECEQを実施した園においては、教職員の自信や意欲につながり、保育の質向上を実感している園長も多い。こうした保育の公開によって、地域住民への説明責任を果たすことにもつながっており、継続的に行うことが望まれる。

また、各幼稚園が行っている自己評価の妥当性・信頼性を確保するために、学校関係者評価委員の公開保育への参加を促すことも、実効性を高めるために有効である。自園の実情に応じて、ECEQを活用し、学校評価の実効性を高めることが期待される。

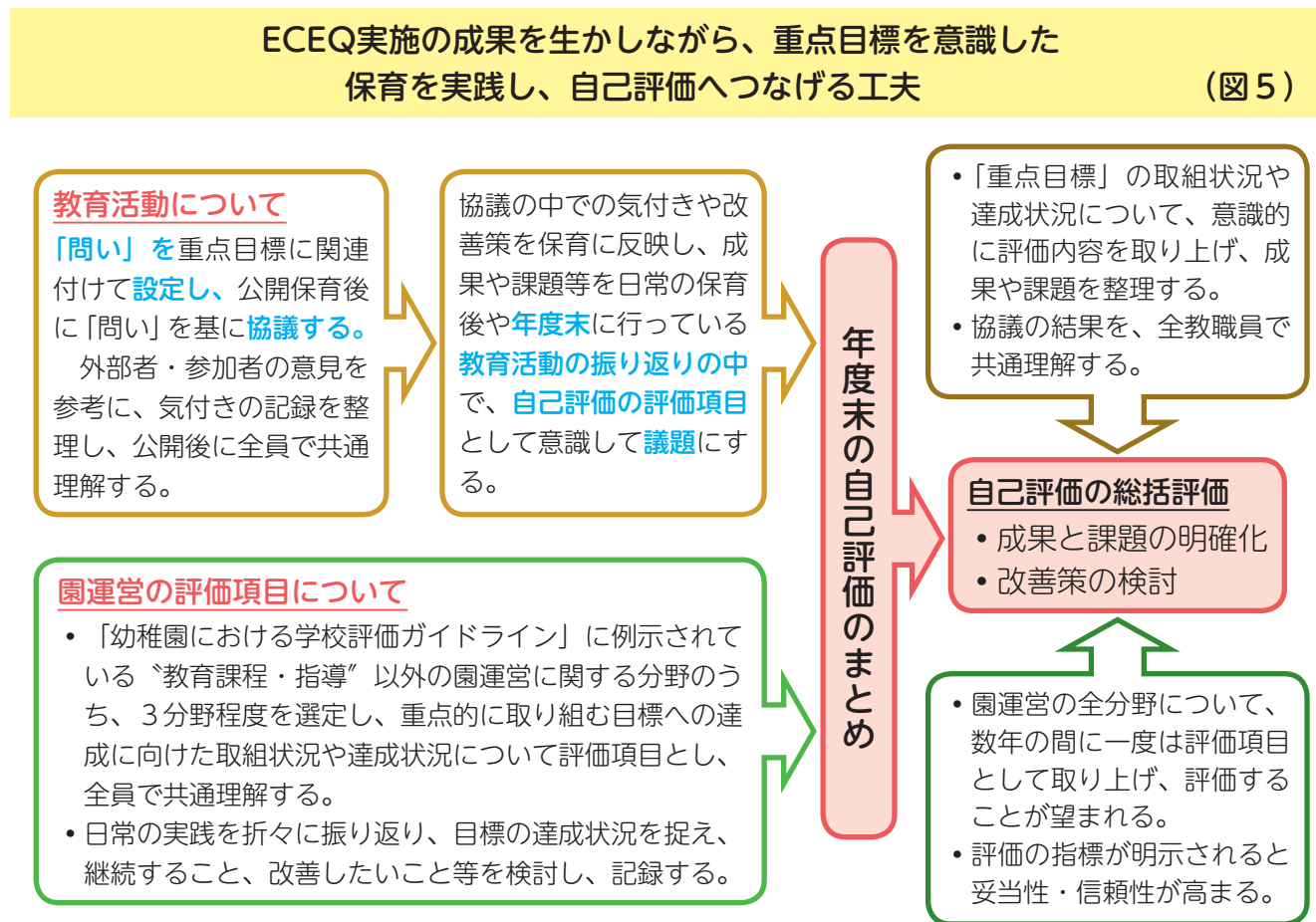


ECEQ実施後の取組

ECEQ実施後も、その成果を生かしながら重点目標を意識した保育実践を行い、丁寧な振り返りを継続することで、自己評価につなげることができる。例えば、前ページの例のように重点目標を「自然に関わる活動の充実」とした園の場合、週日案の立案時や学期末に「自然に関わる活動」に関する振り返りを積み重ねながら改善しているうちに、一年を通して幼児が自然と関わるための「園庭の自然カレンダー」づくりにつながった。そして、年度末には、積み重ねた記録を読み返して、戸外遊びでの教職員の連携の仕方を検討するなど、公開保育を通して得た新たな気づきや同僚性を生かした保育の改善を試みながら、結果として長期の指導計画を見直すことにつながった。このような教育課程のPDCAを繰り返しながら、年度末には、園運営に関するその他の項目についても評価し、次年度に取り組むべき課題を設定した。

ECEQを実施したのみでは学校評価とはなり得ないが、このように、ECEQのSTEP 1～5を学校評価との関連で捉え、両者を相互に関連付けて実施することにより、効率的・効果的に教育の質向上を図ることができる。公開保育を通して自園のよさや課題、そして改善策を自らに問いかける行為は、学校評価に実効性を与え、教職員一人一人が質の高い幼児教育の担い手であるという自覚をより強固にする機会となる。そのためには、STEP 1及びSTEP 2で、重点目標の内容を全教職員が確認し、重点目標に照らした園の現状と課題を把握することが大切である。そして、STEP 3及びSTEP 4では、重点目標や評価項目、評価指標と関連した「問い」とすることで、公開保育参加者の意見を聞きながら園の保育の現状を振り返ることができる。STEP 5では、STEP 1～4を通して振り返り、園のよさや課題を再整理し、改善に向けた取組を検討することができる。

ECEQの実施を通して、重点目標の理解が深まり、評価項目、評価指標の教師同士の基準のすり合わせも可能となり、教職員同士の意見交換の中で自然に園としての自己評価の意義ややり方を学ぶことができる。そして、右の図5のように年度末の学校評価における自己評価では、ECEQでの経験を生かして実施することで、効果的・効率的になるのである。



参考資料4 Q & Aの質問内容の一覧

Q. 1	「重点的に取り組む目標」は、教育目標とは違うの？ いくつくらい設定するの？	P.3
Q. 2	「重点的に取り組む目標」は、園の教職員が決めてもいいのですか？	P.3
Q. 3	「重点的に取り組む目標」は、毎年同じでもいいですか？	P.4
Q. 4	目標が達成していない場合は、次年度も同じ「重点的に取り組む目標」にするのですか？	P.4
Q. 5	自園の実情に応じて「評価項目」を、どのように決めればよいですか？	P.5
Q. 6	「取組指標」や「成果指標」は、何をイメージして設定すればいいの？	P.6
Q. 7	なぜ、「指標」を示さないといけないの？	P.6
Q. 8	「評価指標・基準」て、なんですか？	P.7
Q. 9	「取組指標」を数で示すと、「取組を〇回すればよい」ということになりませんか？	P.8
Q. 10	「成果指標」は、幼児の育ちの最終目標と考えるのですか？	P.8
Q. 11	保育の中での教師の取組は、学年によって違うと思いますが、担当している学年に応じて考えればよいですか？	P.9
Q. 12	(「評価指標の設定」について) 分かってきたように思うけど、実際につくると難しいかも、…。そんな場合どうしたらいいですか？	P.10
Q. 13	(「評価項目や指標」の設定の留意点を) 読むだけでも難しい…。もう少し、簡単な方法はないですか？	P.10
Q. 14	評価指標を段階付けようとすると、どちらがレベルが高いのかわからなくなりそうです。	P.10
Q. 15	なぜ、「評価指標」の数を同じにしないといけないのですか？	P.11
Q. 16	多面的な視点での「評価指標」は、イメージしやすく設定ができそうな気がします。段階的な指標と多面的な指標を混ぜて作成しても大丈夫？	P.12
Q. 17	「評価指標」は、いくつ作ればよい？	P.12
Q. 18	日常の振り返りが、カリキュラム・マネジメントにつながるのですか？	P.13
Q. 19	保護者アンケートは、自己評価となりませんか？	P.13
Q. 20	(自己評価の) 準備が大変ですね	P.14

Q.21	「評価指標」の平均値まで必要ですか？	P.14
Q.22	「自己評価の総括表」まで、作る必要がありますか？	P.15
Q.23	「自己評価総括表」を、各教職員が自らの保育を振り返るときに使ってもいいのですか？	P.15
Q.24	「全方位的な点検・評価」とは、どういうことですか？	P.18
Q.25	「日常的な点検」は、自己評価ではないのですか？	P.19
Q.26	全方位的な自己点検表による点検を自己評価にしてはダメなんですか？	P.20
Q.27	「自己点検表」で評価するのなら簡単でやりやすいのに、なぜ？	P.21
Q.28	点検の場合には、どの程度行ったかなど、細かく確認しなくていいのですか。	P.21
Q.29	各学期末に保育の振り返りをしていますが、それが学校評価につながるのですか？	P.23
Q.30	「学校関係者評価は、しなければならないの？	P.24
Q.31	学校関係者評価ではなく、「保護者アンケート」で十分に保護者の意見は聞けるのではないのですか？	P.25
Q.32	「学校関係者評価」を実施したら、公表もしなければいけないの？	P.26
Q.33	「評価指標」ってこんなに沢山考えなければならないの？	P.31
Q.34	「評価指標」の例は、順番は決まっていないのですか？	P.32
Q.35	「評価指標」は、このように沢山示されている中から選ばよいの？	P.32

参考資料5 学校評価の結果公表の様式例

(「幼稚園における学校評価ガイドライン」を参考に一部改変)

1. 幼稚園の教育目標

--

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な評価項目や計画

--

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
//		(必要に応じて項目数を増やす)
//		

4. 学校関係者評価委員会による評価及び意見の概要

--

5. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の概要

結果	理由

◎項目3.及び項目5.の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

最後に

学校評価の実施方法は、一律ではありません。

「今年度は、このことについて重点的に取り組もう」という目標や課題を設定して、それぞれの幼稚園等の実情に応じて工夫しながら、保育の改善につなげることが望めます。本ガイドブックでは、評価項目・評価指標等の例をたくさん提示しましたが、こうでなくてはならないというものは、一つもありません。大切なことは、「子どもたちの育ちや園生活が、より豊かになるような教育活動の実現」に向けた目標や取組について、全教職員が共有できるようなヒントを示すことです。このことを学校評価の計画（準備）の中心に据えていれば、各幼稚園の実情に即した学校評価が実施され、自園に特有の課題が見つかり、自園なりの改善策が見つかることは間違いありません。

「どのような視点で見ればいいの？」ではなく、「こういう視点で見てみたら、いつも気付かない課題が見えてくるかもしれない」というようなチャレンジングな姿勢も必要です。課題を見付けるには、多様な視点が必要なのです。そして、課題が見つかったら、「その対応策を考えよう」というPDCAが生まれ、実効性のある学校評価が実践されることを期待しています。

まずは、
やってみて

試して
みて

本書を活用して、
実効性ある学校評価を！

実効性のある学校評価の実施に向けて

— 幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブック —

作成委員会委員

(50音順)

実行委員長	岡上 直子	元十文字学園女子大学 教授
委員	岩立 京子	東京家政大学 教授
委員	岡本 潤子	青森・千葉幼稚園 園長
委員	小山 容子	創価大学 講師
委員	柴田 知江	静岡大学教育学部附属幼稚園 副園長
委員	瀬田 雅江	東京・特別区人事・厚生事務組合教育委員会 主事
委員	高梨 智子	千葉・浦安市健康こども部保育幼稚園課 副主幹
委員	中井清津子	相愛大学 教授
委員	中村 和穂	淑徳大学 非常勤講師
委員	東川 則子	聖徳大学短大 教授
委員	古川 ワカ	東京・新宿区立四谷子ども園 園長
委員	宮下友美恵	静岡・静岡豊田幼稚園 園長
委員	山崎 佳世	千葉・由田学園千葉幼稚園 園長
委員	若槻 容子	東京・中野区立かみさぎ幼稚園 園長

研究協力園

秋田・山王幼稚園
東京・台東区立金竜幼稚園
東京・新宿区立四谷子ども園
静岡・静岡豊田幼稚園
奈良・大和高田市立菅原幼稚園
高知・香南市立野市幼稚園
高知・平成学園ひまわり幼稚園
福岡・聖ヨゼフ幼稚園

実効性のある学校評価の実施に向けて

— 幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブック —

2021(令和3)年3月

公益社団法人全国幼児教育研究協会理事長 福井 直美
事務局 102-0074 東京都千代田区九段南2-4-9 第3早川屋ビル8階